

重茂館遺跡群

—重茂小学校仮設グラウンド整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書—
(第3次発掘調査)

2017.3

岩手県宮古市教育委員会

重茂館遺跡群

—重茂小学校仮設グラウンド整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書—
(第3次発掘調査)



2017.3

岩手県宮古市教育委員会

序 文

重茂館遺跡群では平成2年に第1次発掘調査が行われています。第1次調査では縄文時代中期の濃密な遺物包含層を調査しています。第2次調査は重茂小学校の建築に伴い平成20年に行われ、縄文時代早期末に伴う遺物包含層が調査の対象となりました。また、平成23年の東日本大震災以降、復興事業に伴い同遺跡では平成23年から平成25年にかけて第3次～第5次調査が行われています。

本報告書の第3次調査は、重茂小学校の運動場の整備に伴い平成24年に実施されたものです。第2次調査区の南側の洞地が調査対象となりました。今回の調査では、縄文時代早期から前期にかけての土器の包含層が確認されております。その中には貝殻で文様をつけた土器や縄文を押し付けて文様をつけた土器など市内では類例の少ない土器が含まれており注目されるところです。

最後に、野外での調査、あるいは室内での資料整理に協力いただきました関係者、各位に感謝申し上げるとともに、この成果が広く活用されることを願い序文とします。

平成29年3月

宮古市教育委員会
教育長 伊藤 晃 二

例 言

1. 本書は、宮古市立重茂小学校仮設グラウンドの整備事業に伴い平成 24 年に実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
2. 調査の主体は宮古市教育委員会である。平成 24 年の調査は阿部が担当し、本書の編集、執筆は阿部が担当した。
3. 遺構平面図には任意の座標を用いたが、高さは標高値をそのまま使用した。
4. 出土した遺物、実測図、写真など調査に関わる資料は、宮古市教育委員会が一括して保管している。
5. 遺物の表現については下記のとおりとした。



繊維を含む土器

目 次

序

例言

目次

調査経過

1. 調査に至る経過	1
2. 調査要旨	1
3. 調査体制	1
4. 遺跡の立地と環境	2

調査内容

1. 調査の方法	15
2. 基本層序	15
3. 検出した遺構、遺物	15
4. 調査のまとめ	24
写真図版	26
報告書抄録	34

図 版 目 次

第1図	宮古市位置図	2
第2図	地形分類図、周辺の遺跡	3
第3図	重茂館遺跡群と調査地点	4
第4図	調査区位置図	5
第5図	調査区全体図	6
第6図	トレンチA土層断面図	7
第7図	トレンチB土層断面図	8
第8図	トレンチB、C土層断面図	9
第9図	トレンチC土層断面図	10
第10図	トレンチC、E土層断面図	11
第11図	D区遺構配置図	12
第12図	D区土層断面図、P5～P7土層断面図	13
第13図	土坑跡P1～P4平断面図	14
第14図	土坑跡出土遺物	14
第15図	D区出土遺物(1)土器(Ⅱ、Ⅲ層)	17
第16図	D区出土遺物(2)土器(Ⅲ層)	18
第17図	D区出土遺物(3)石器(Ⅲ層)	19
第18図	D区出土遺物(4)石器(Ⅲ層)	20
第19図	トレンチB、C出土遺物(Ⅱ層)	21
第20図	トレンチA～C出土遺物(1)(Ⅲ層)	22
第21図	トレンチA～C出土遺物(2)(Ⅲ層、Ⅳ層、カクラン)	23

写真図版目次

写真図版1	試掘調査出土状況	27
写真図版2	D区出土状況	28
写真図版3	出土遺物(1～26)	29
写真図版4	出土遺物(27～41)	30
写真図版5	出土遺物(42～51)	31
写真図版6	出土遺物(52～67)	32
写真図版7	出土遺物(68～77)	33

調査経過

1. 調査に至る経過

東日本大震災により、重茂小学校の運動場に仮設住宅が建設されることになり、それに伴い運動場の仮設整備が決定された。当該地は周知の遺跡「重茂遺跡群」に含まれており、宮古市（教育委員会文化課）との事前協議行われ、試掘調査の実施が決められた。試掘調査は平成24年9月に行われ、土坑跡、縄文時代の遺物包含層が確認された。

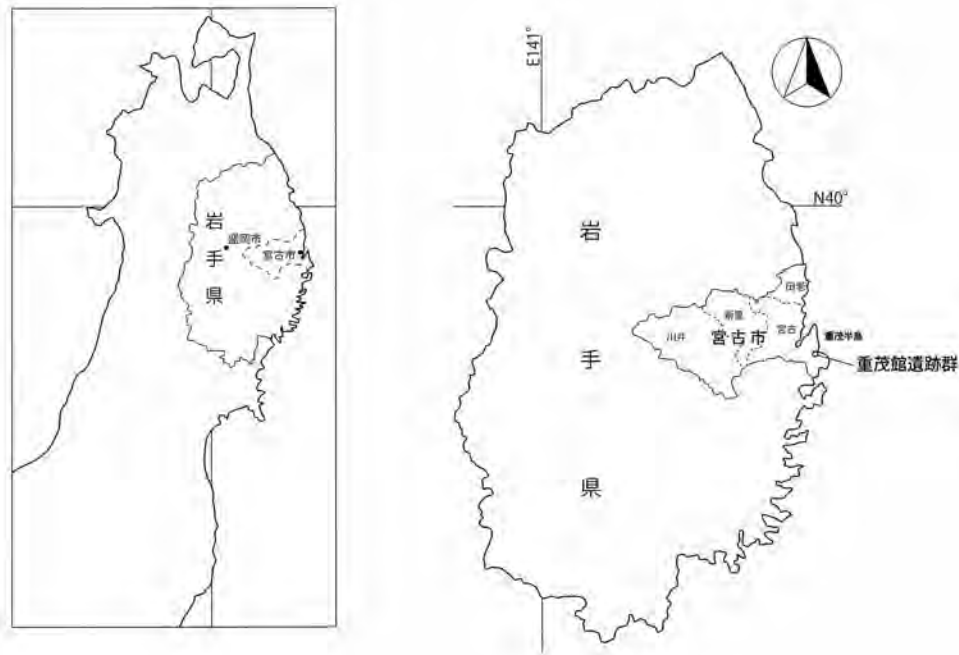
試掘調査の結果を受けて、宮古市（教育委員会文化課）との協議が行われ、平成24年10月に本調査を実施することが決められた。本調査は予定通り平成24年10月に行われた。本書はその結果を報告するものである。

2. 調査要旨

発掘調査地点	宮古市字重茂第2地割12番地
遺跡名	重茂館遺跡群（LG75-0284）
調査原因	重茂小学校仮設グラウンド整備事業
試掘調査	平成24年9月3日～平成24年9月28日
調査面積	418 m ²
本調査	平成24年10月9日～平成24年10月28日
調査面積	171 m ²
資料整理	平成25年1月7日～平成25年3月15日 平成28年7月1日～平成29年2月28日
出土遺構、遺物	近世の土坑跡、縄文時代早期～前期初頭の遺物包含層

3. 調査体制

調査主体	宮古市教育委員会	教育長	伊藤 晃二（平成25年度～）			
調査総括	高橋 憲太郎	宮古市教育委員会	文化課長（平成27年度～）			
事務担当	鎌田 祐二	〃	文化課副主任（平成27年度～）			
調査員	安原 誠	〃	文化課主任文化財調査員			
	江口 邦泰	〃	文化課主任文化財調査員			
	伊藤 正人	〃	文化課主任文化財調査員（平成28年4月～ 名古屋市派遣）			
	阿部 豊	〃	文化課埋蔵文化財発掘調査員（非常勤、主担当）			
	前川 友宏	〃	文化課埋蔵文化財調査員（非常勤）			
	赤沼 みちる	〃	文化課埋蔵文化財調査員（非常勤）			
発掘調査						
試掘調査	山崎 日日雄	伊藤 勝夫	小林 功行	大森 修	坂下 吉郎	木村 洋一
	佐々木 亨	山根 清美	小松 義一			
本調査	山崎 日日雄	伊藤 勝夫	佐々木 亨	加藤 有次	西舘 博文	
資料整理	山崎 日日雄	加藤 有次	小成 鷹介			



第1図 宮古市位置図

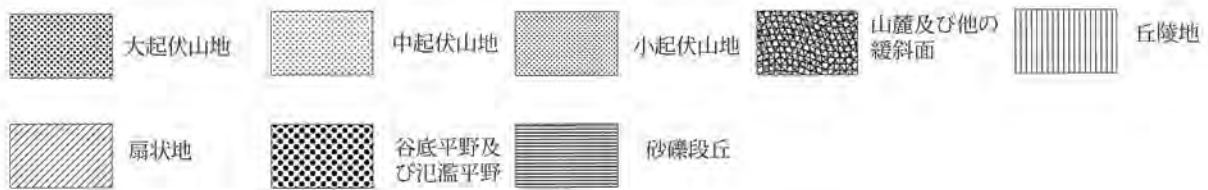
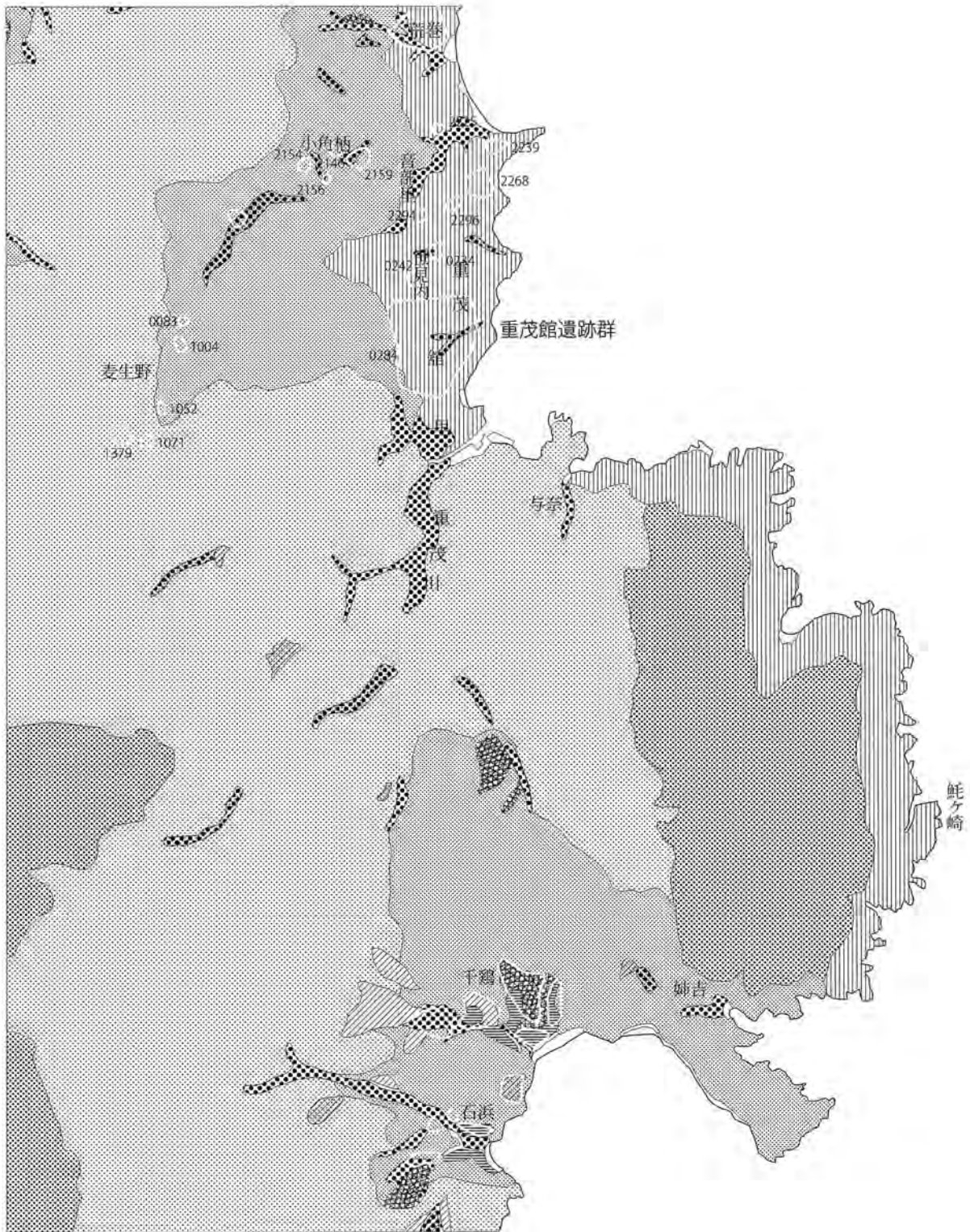
4. 遺跡の立地と環境

宮古市は三陸海岸の中央に位置する「海の町」であったが、隣村の新里村、川井村と合併し、北上山地をも併せ持つ「海と山の町」である。宮古市の東端に位置し、北東に突き出た重茂半島は、西側で宮古湾を形成し、東側の沿岸部は太平洋に臨む本州最東端の地として名高い。重茂館遺跡群は半島東側沿岸部のほぼ中央に位置する。

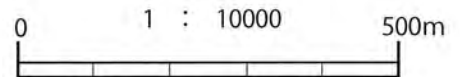
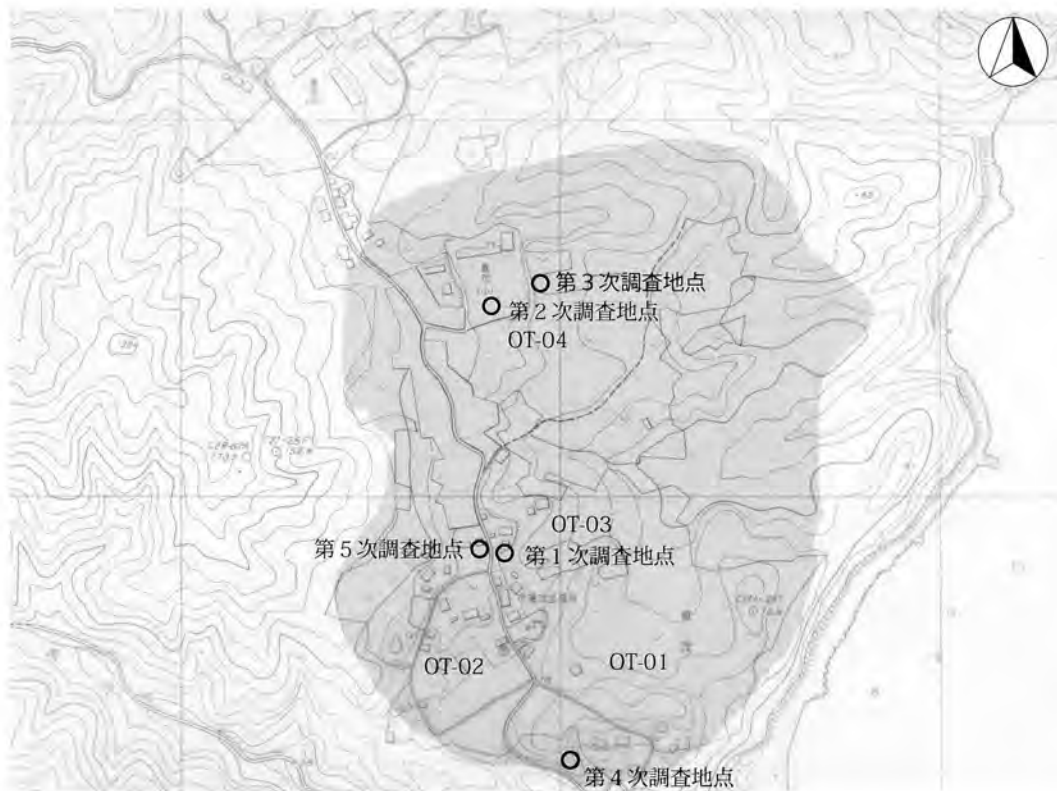
重茂半島中央部の遺跡は、沿岸部の鮭ヶ崎丘陵に立地するものと、十二神山山地の小起伏山地に立地するものがあり、いずれも縄文時代を主体とした遺跡である。重茂館遺跡群は前者に属する。

重茂遺跡群は、4ヶ所の遺跡OT-01からOT-04を総称した遺跡名である。今回の調査区は、平成20年の第2次調査と同じOT-04地区である。第二次調査では、尾根の緩斜面であったが、今回はそれに続く谷の部分が調査対象となった。

平成2年の第一次調査は、OT-03地区で行われ、かなり密度の濃い縄文時代中期の遺物包含層が報告されている（宮埋文報31「重茂館遺跡群92」）。また、東日本大震災以降、復興関連調査として、第3～5次調査が行われた（第3図）。



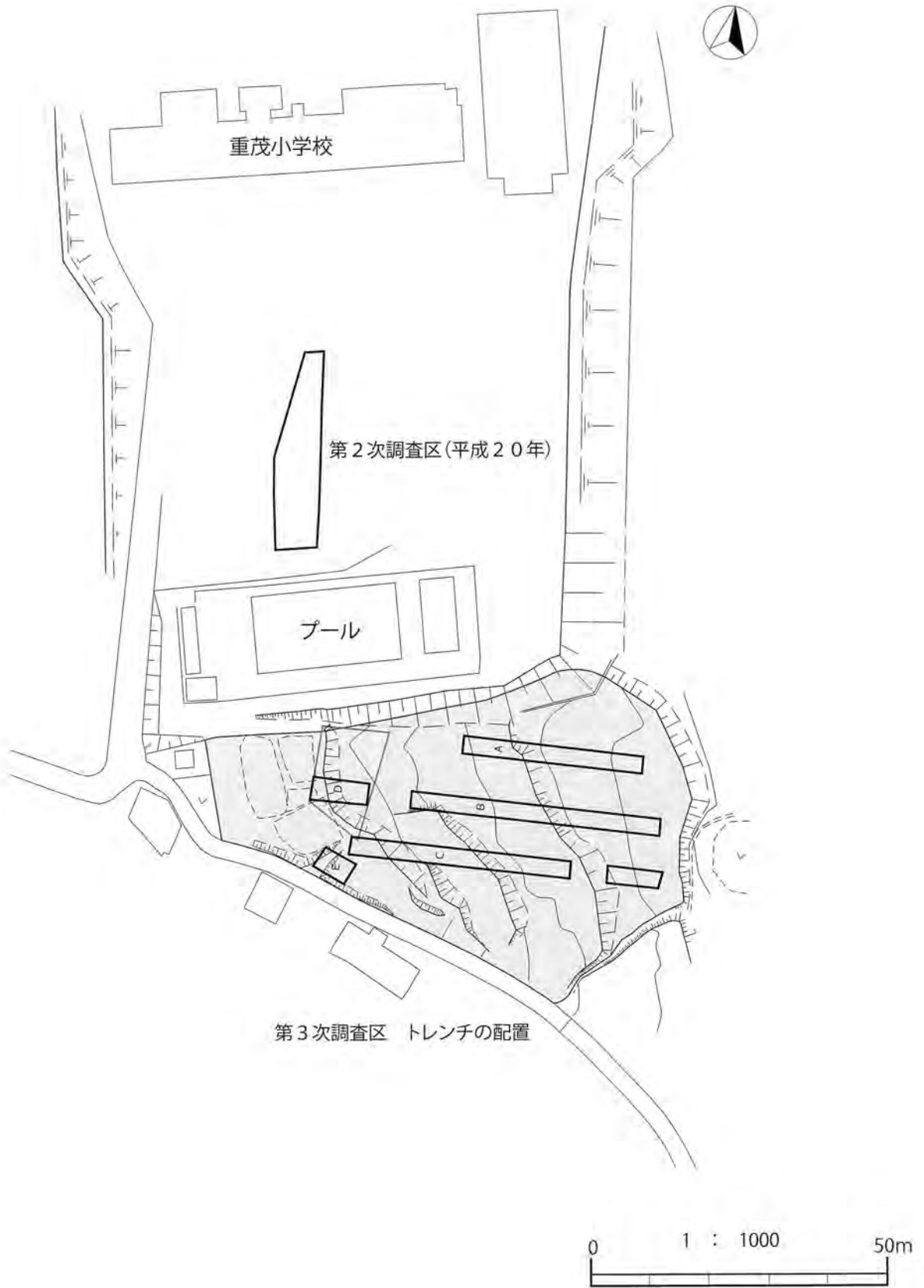
第2図 地形分類図、周辺の遺跡



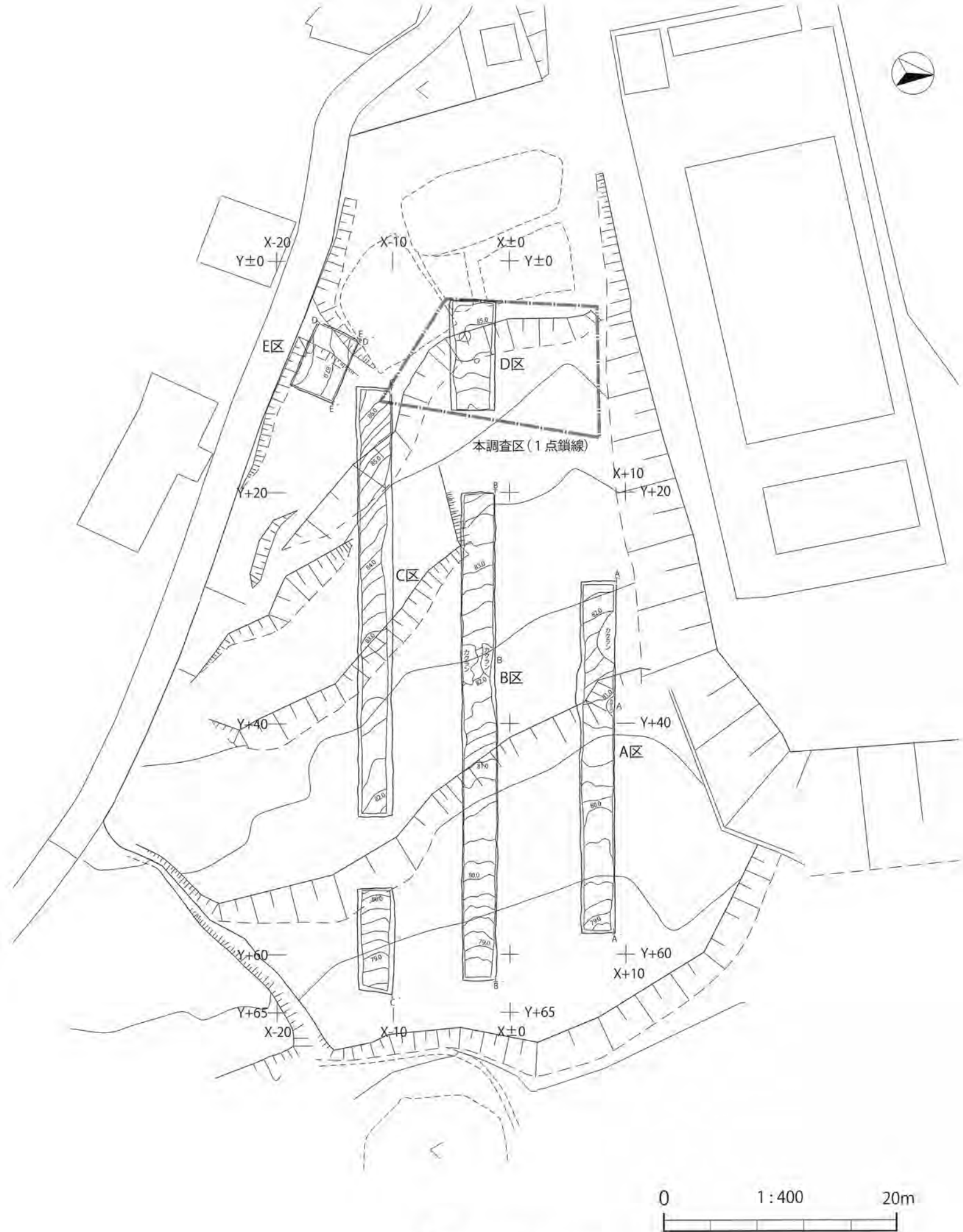
第3図 重茂館遺跡群と調査地点

周辺の遺跡（第2図）

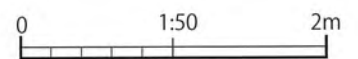
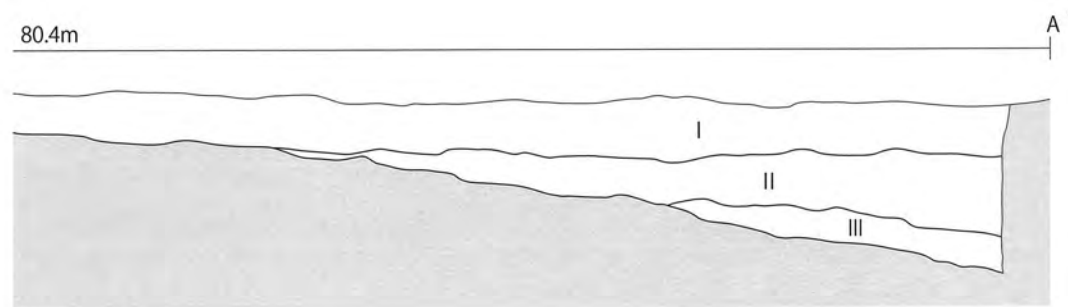
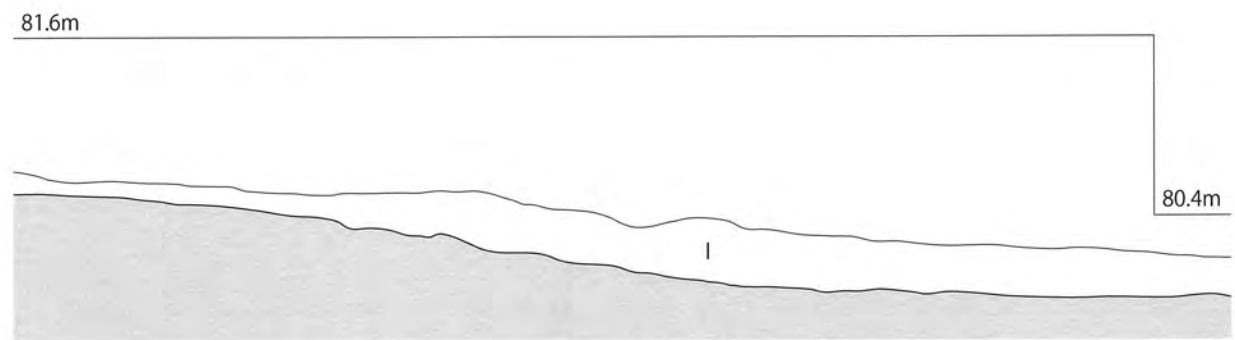
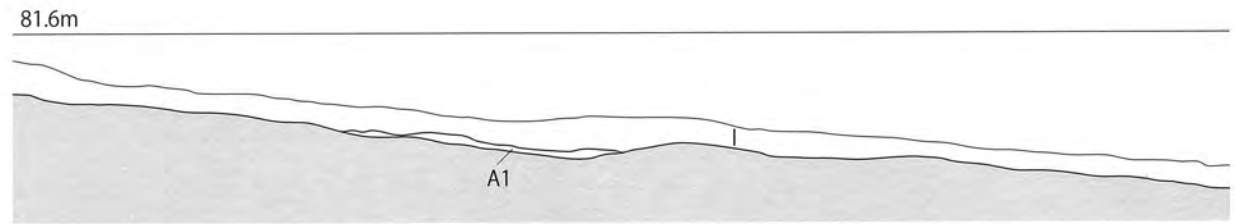
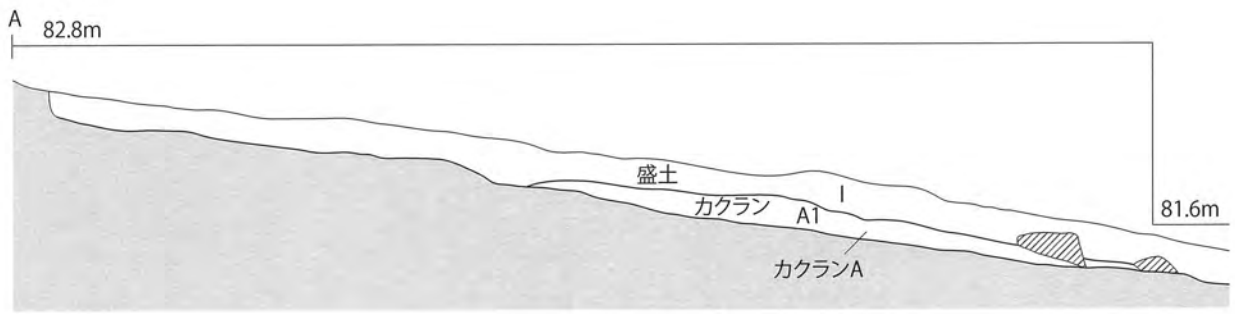
遺跡コード	遺跡名称	遺物・遺構	所在地
LG45-2154	小角柄Ⅳ	縄文時代土器	音部第11地割横道
LG45-2156	小角柄Ⅲ	縄文時代土器	音部第11地割横道
LG45-2146	小角柄Ⅱ	縄文時代中期土器	音部第9地割後釜
LG45-2159	小角柄Ⅰ	縄文時代前期・中期土器	音部第8地割坂
LG45-2225	音部大下	縄文時代中期土器	音部第5地割大下
LG45-2294	音部追磯	縄文時代土器	音部第3地割追磯
LG45-2239	音部谷地頭Ⅰ	縄文時代後期土器	音部第1地割谷地頭
LG45-2268	音部谷地頭Ⅱ	縄文時代中期・後期土器	音部第1地割谷地頭
LG45-2296	音部谷地頭Ⅲ	縄文時代中期・後期土器	音部第1地割谷地頭
LG54-1379	麦生野Ⅵ	縄文時代後期土器・土師器	音部第7地割坂ノ上
LG55-1071	麦生野Ⅴ	縄文時代土器	音部第7地割坂ノ上第4地割須賀長根
LG55-1052	麦生野Ⅳ	縄文時代土器	音部第7地割坂ノ上
LG55-0083	麦生野Ⅰ	縄文時代土器	音部第7地割坂ノ上
LG55-1004	麦生野Ⅱ	縄文時代前期・中期土器	音部第4地割須賀長根
LG55-0242	笹見内Ⅰ	縄文時代土器	重茂第2地割館
LG55-0234	笹見内Ⅱ	縄文時代土器	重茂第2地割館



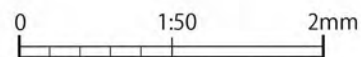
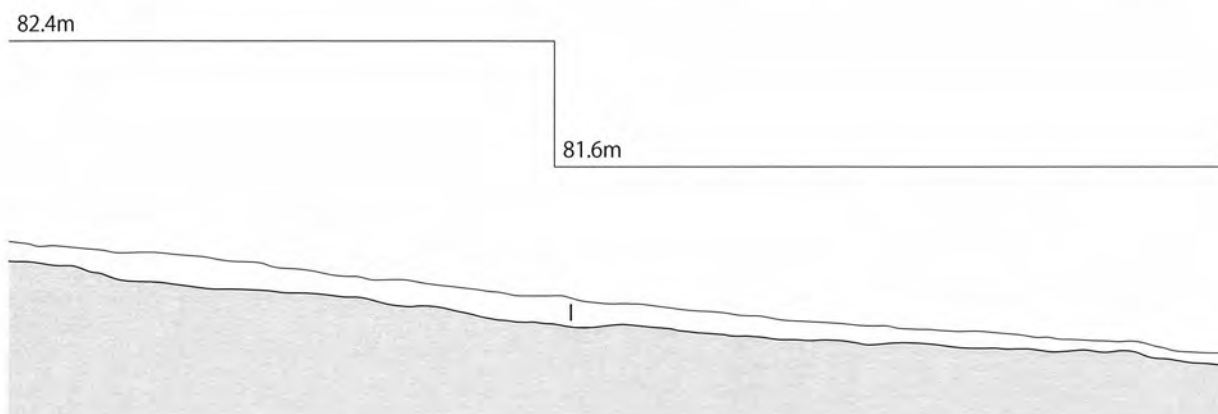
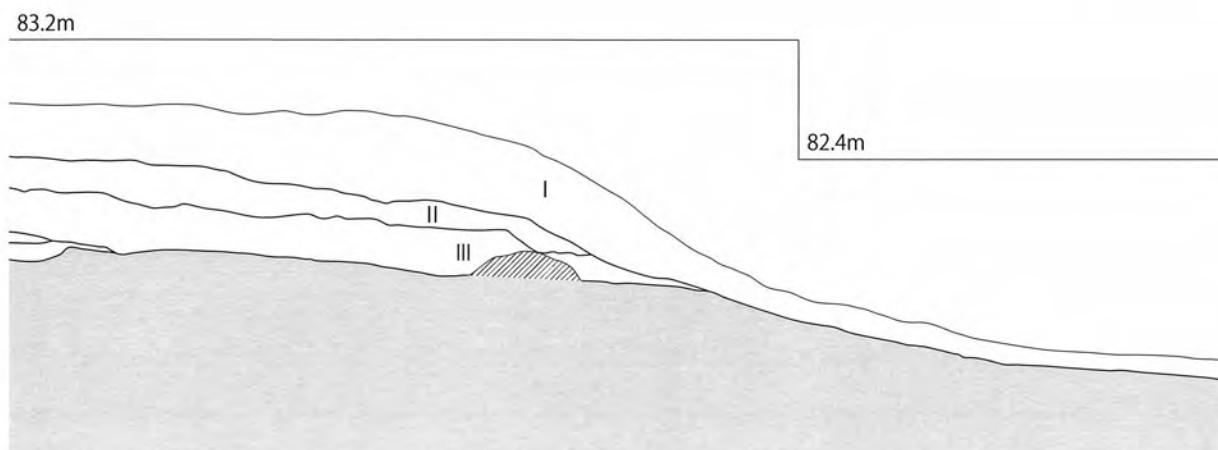
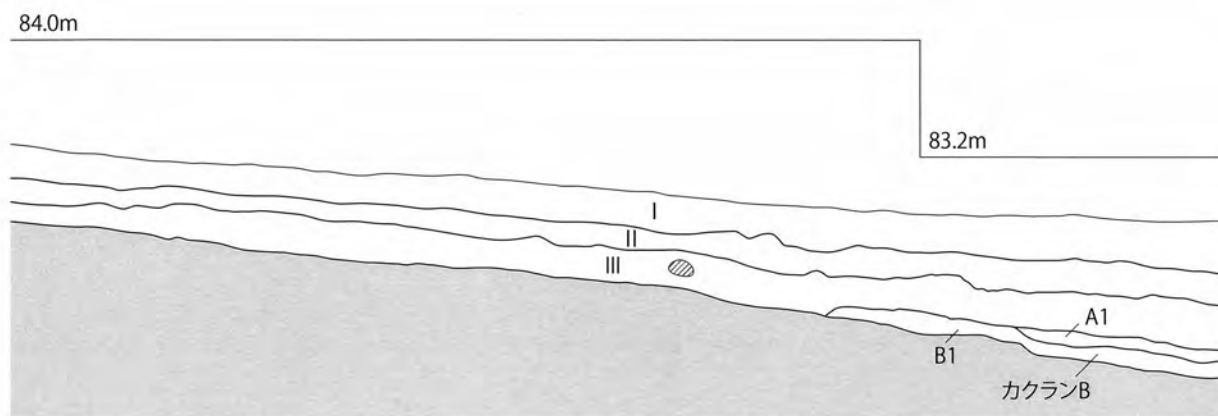
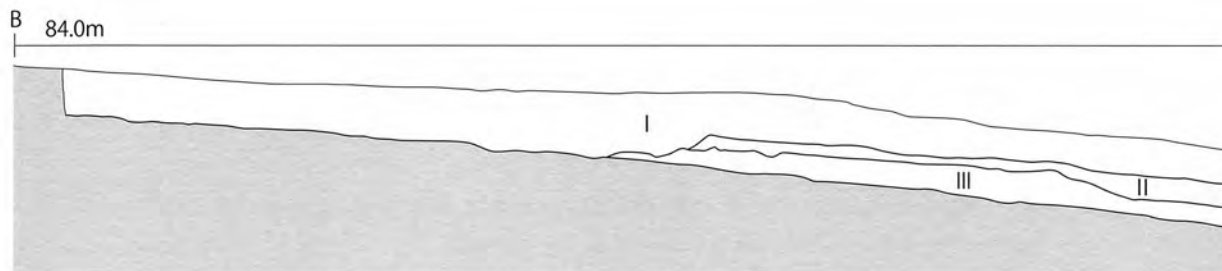
第4図 調査区位置図



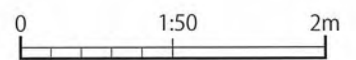
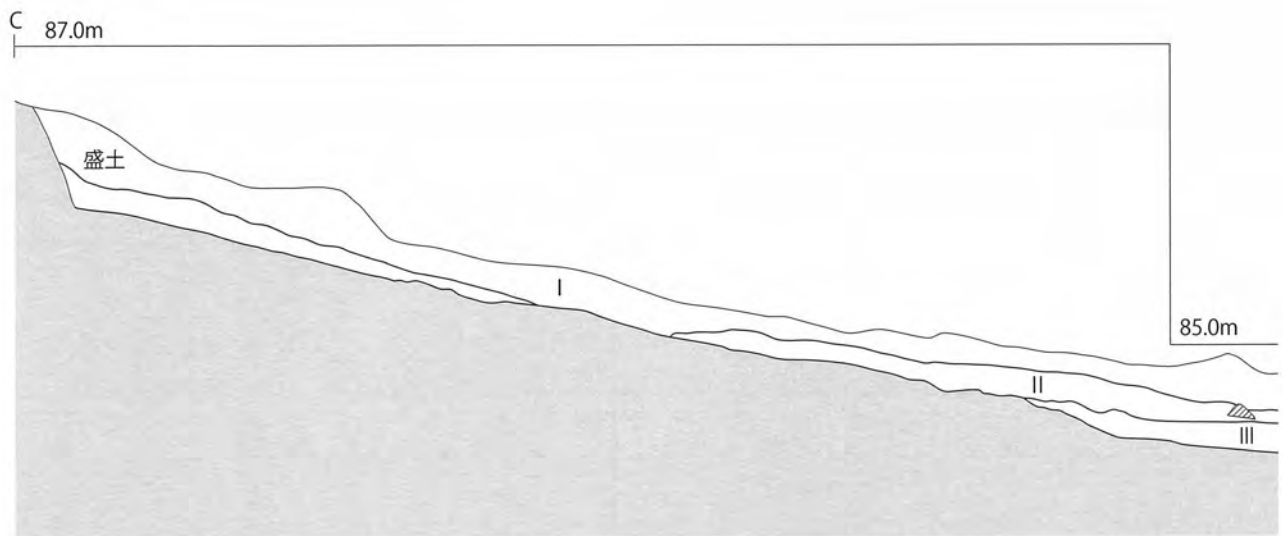
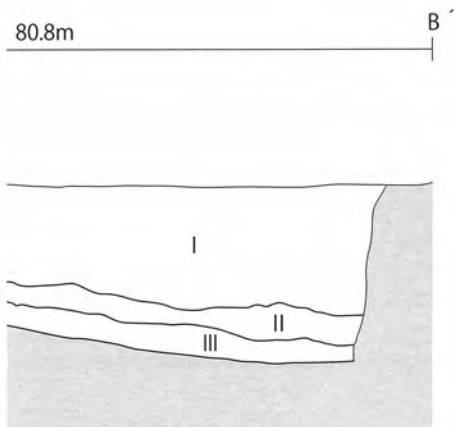
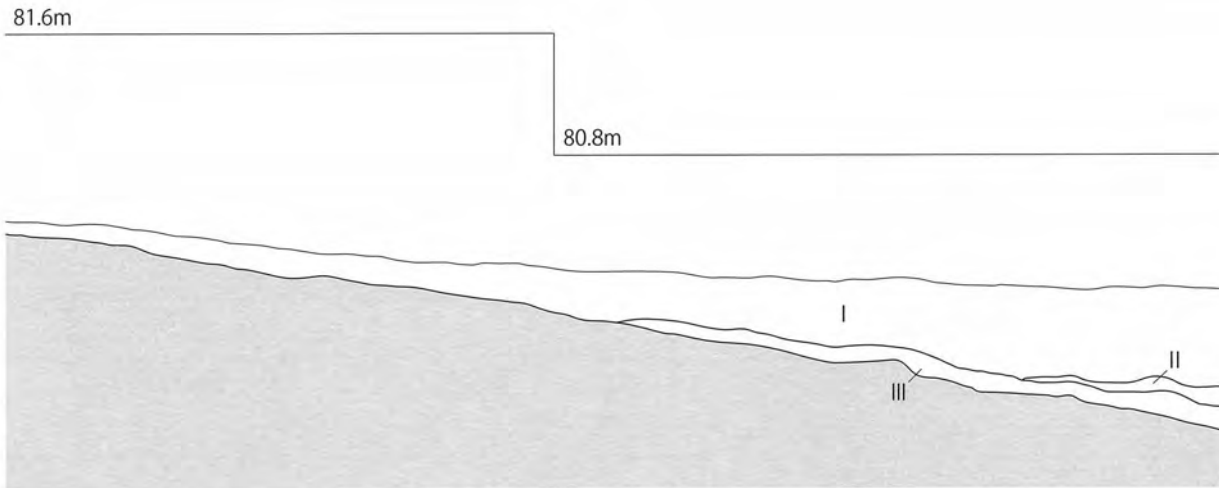
第5図 調査区全体図



第6図 トレンチA土層断面図

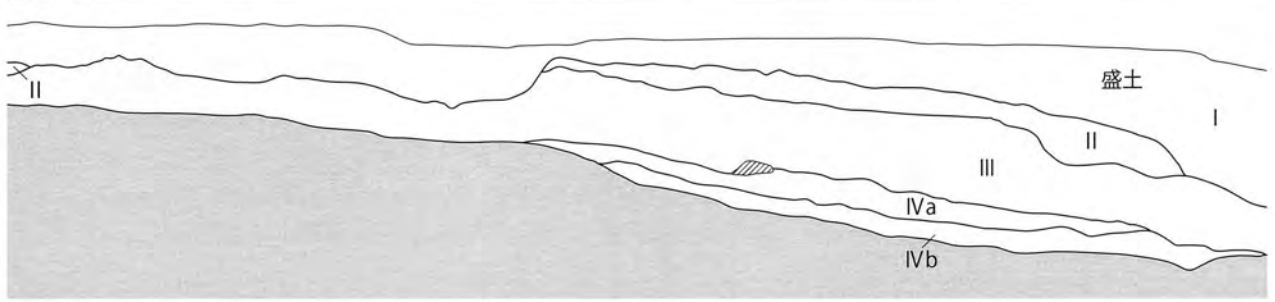


第7図 トレンチB断面図

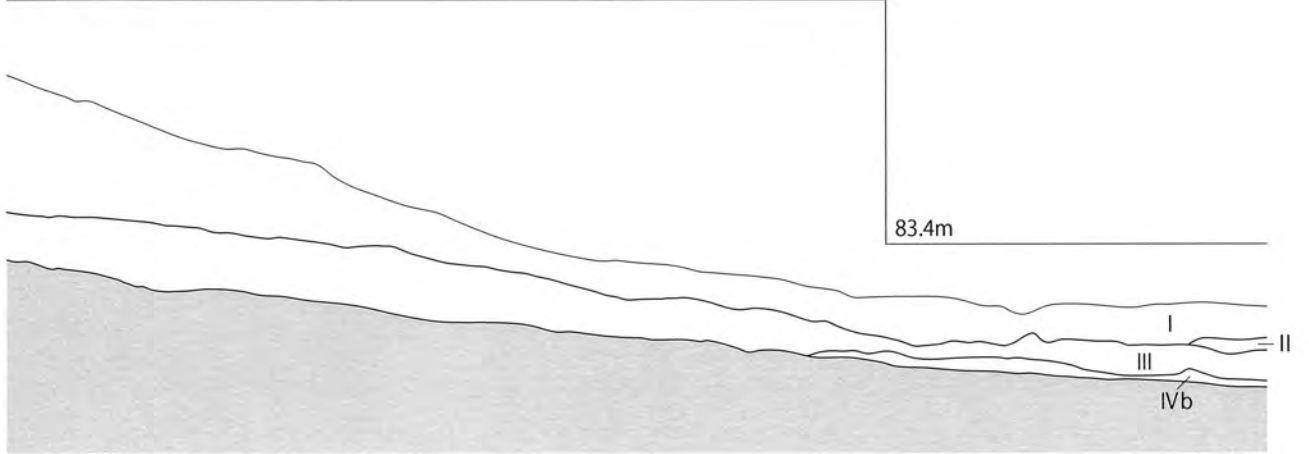


第8図 トレンチC断面図

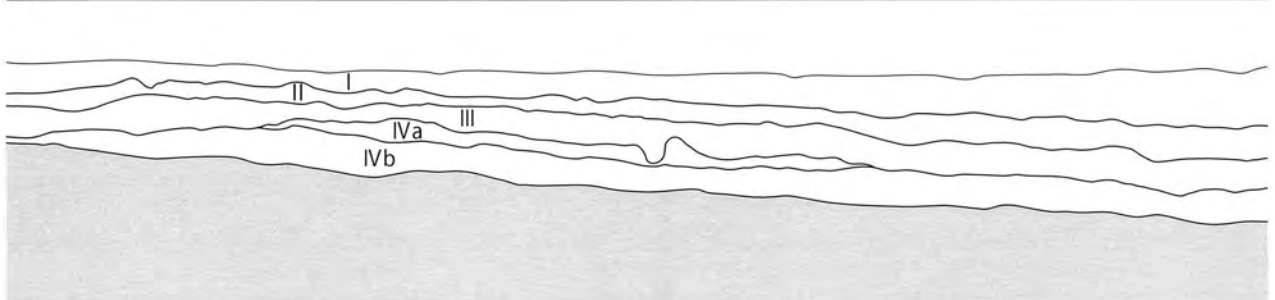
85.0m



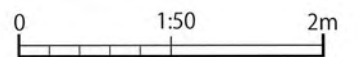
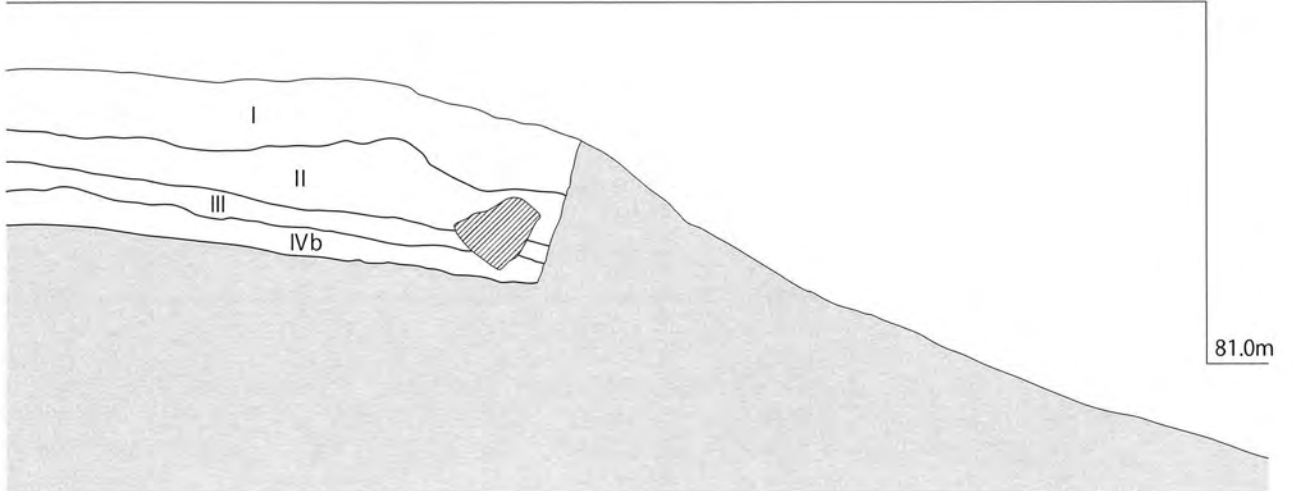
85.0m



83.4m

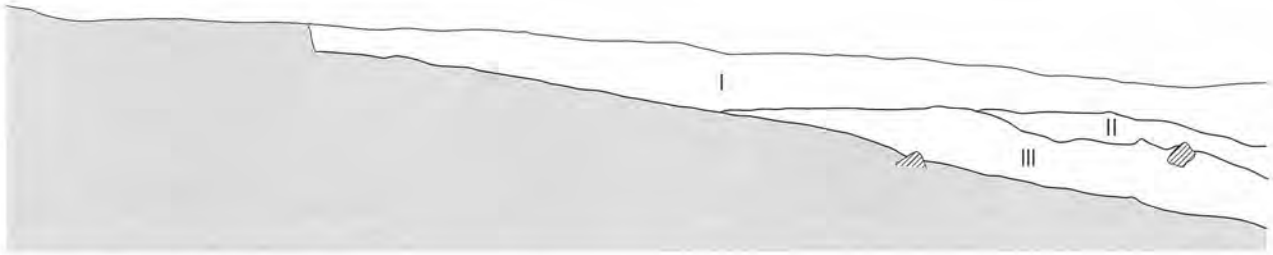


83.4m

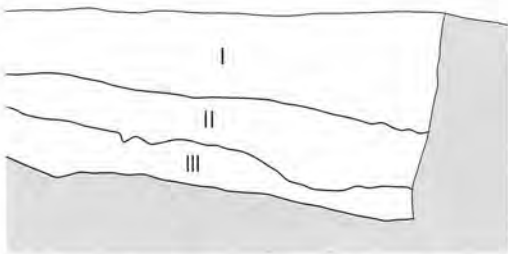


第9図 トレンチC断面図

81.0m



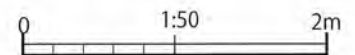
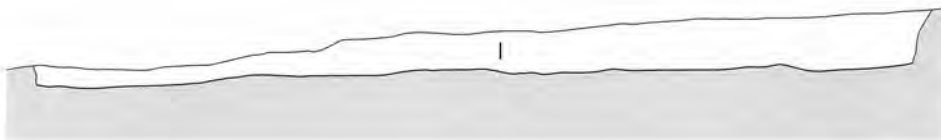
81.0m C'



D 87.6m D'

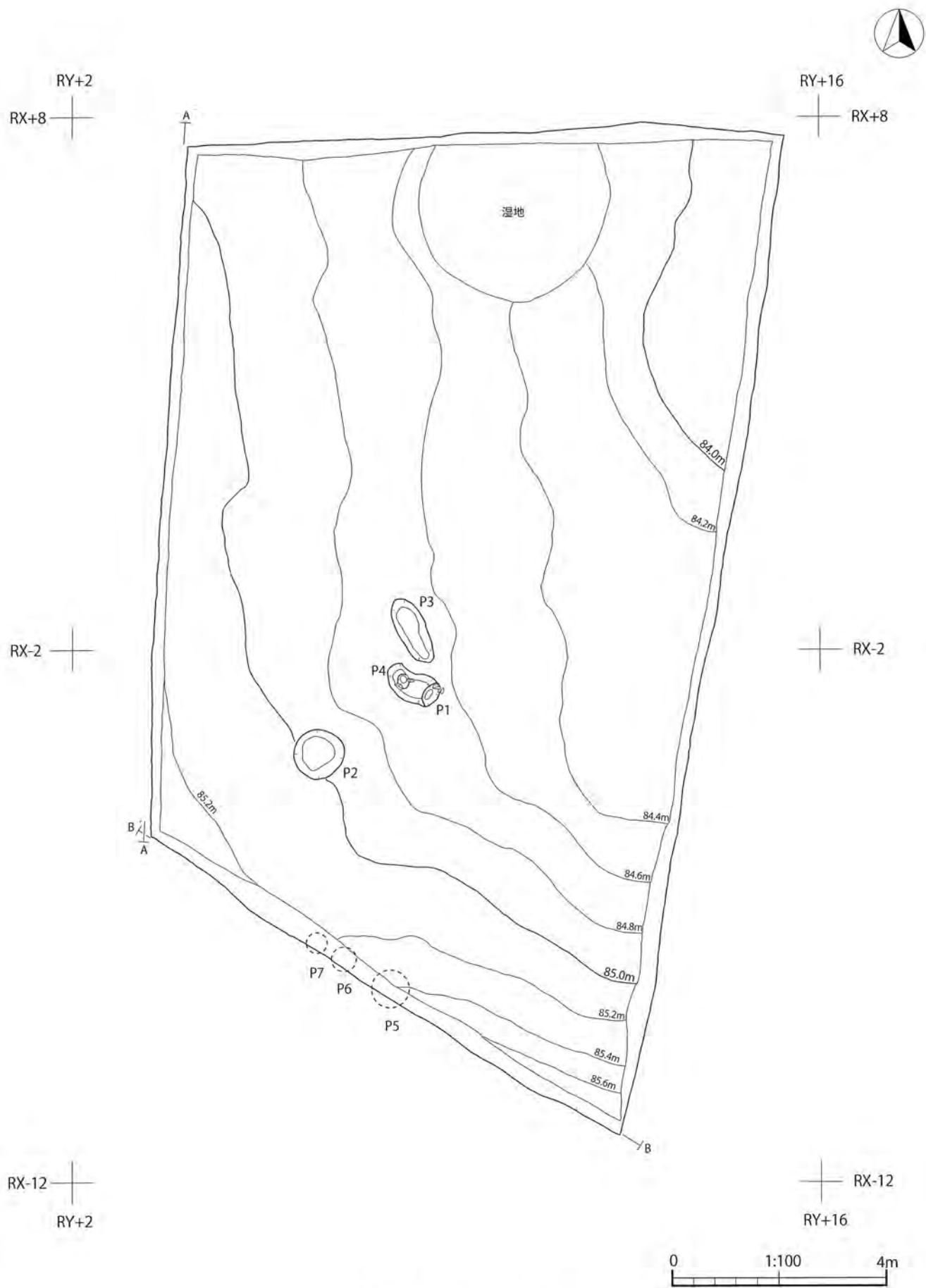


E 87.6m E'

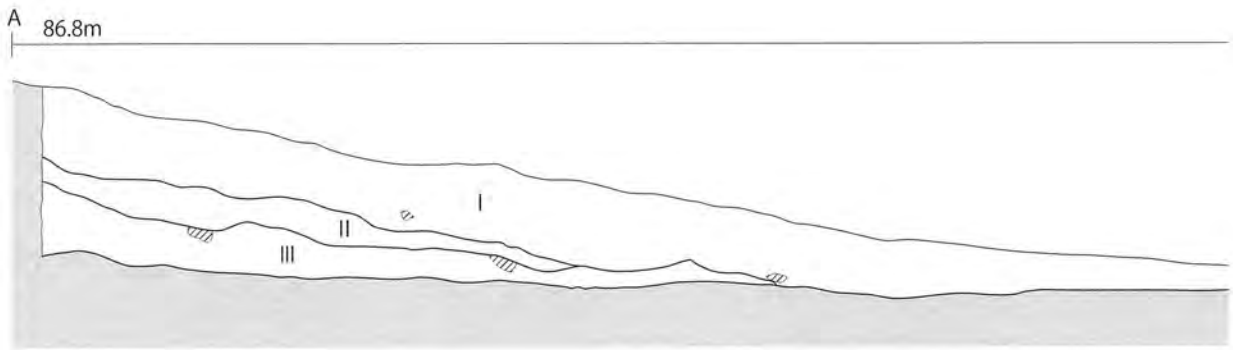


層名	基本土	混入土	固さ・密度・構造・混入物など
I 盛土			暗褐色土
II 旧表土	10YR3/2 黒褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土 5%	黒色土。中、中～密、塊状。礫少
III	10YR3/4 暗褐色 砂壤土	10YR3/2 黒褐色 砂壤土 10%	中～固、中～密、塊状。土器少、礫多
IV a	10YR4/4 褐色 砂壤土	10YR3/4 暗褐色 砂壤土 10%	中～固、中～密、塊状。土器少、焼土粒少
IV b	10YR4/6 褐色 砂壤土	10YR3/4 暗褐色 砂壤土 10%	中～固、中～密、塊状。
A1 カクラン	10YR2/3 暗褐色 砂壤土	10YR3/4 暗褐色 砂壤土 10%	中～固、中～密、塊状。包含層
B1 カクラン	10YR4/3 にぶい黄褐 砂壤土	10YR3/3 暗褐 砂壤土 10%	中～固、中、塊状。上層に遺物

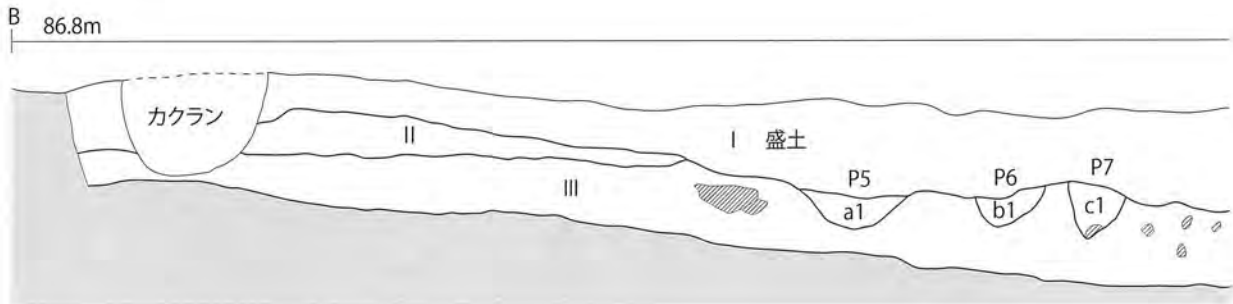
第 10 図 トレンチ C、E 断面図



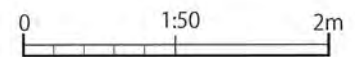
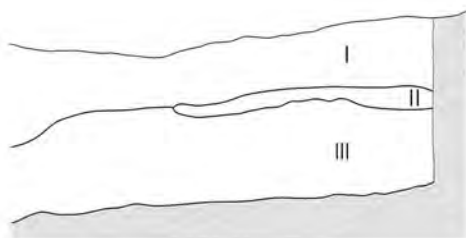
第 11 図 D区遺構配置図



86.8m A

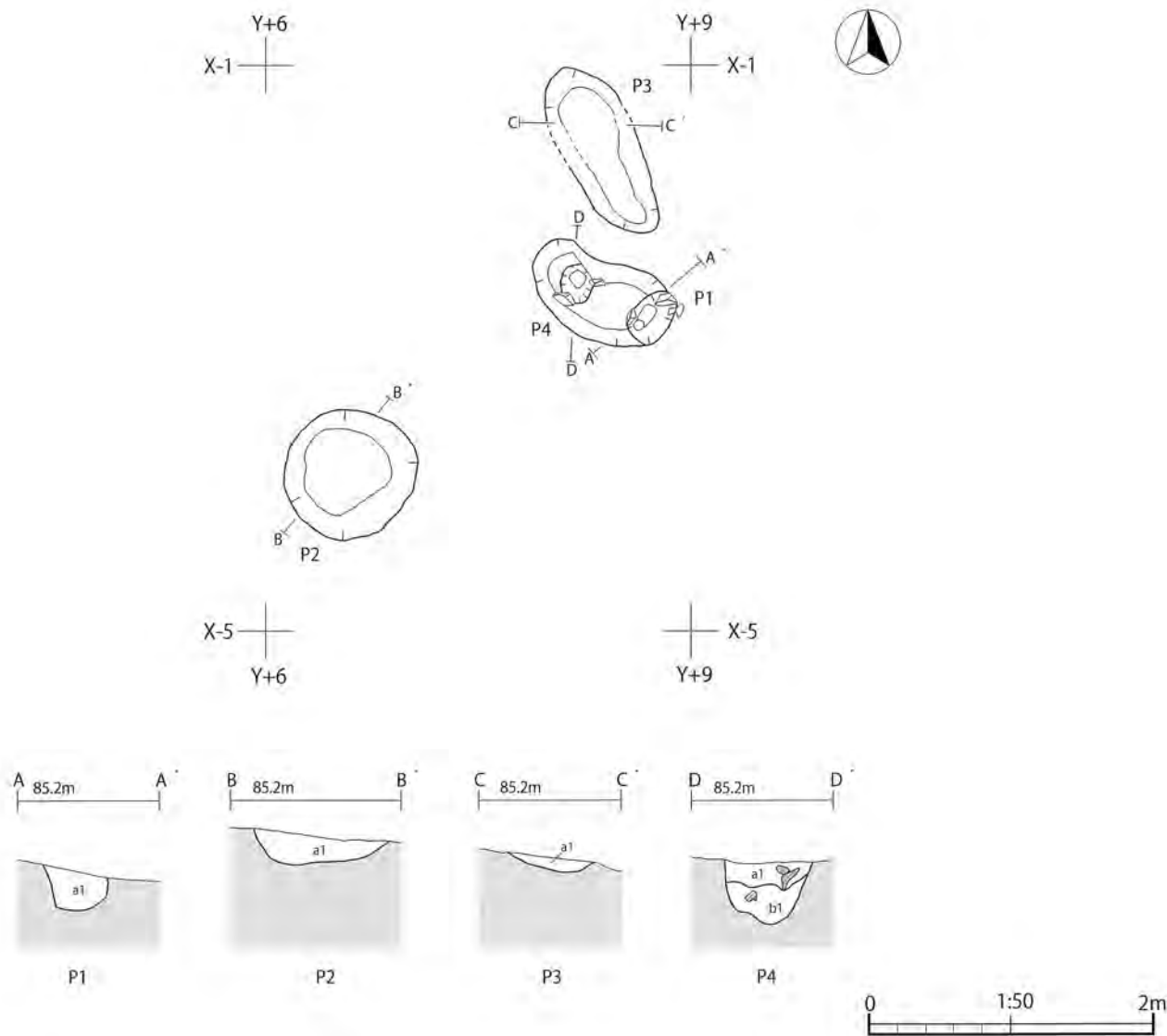


86.8m B



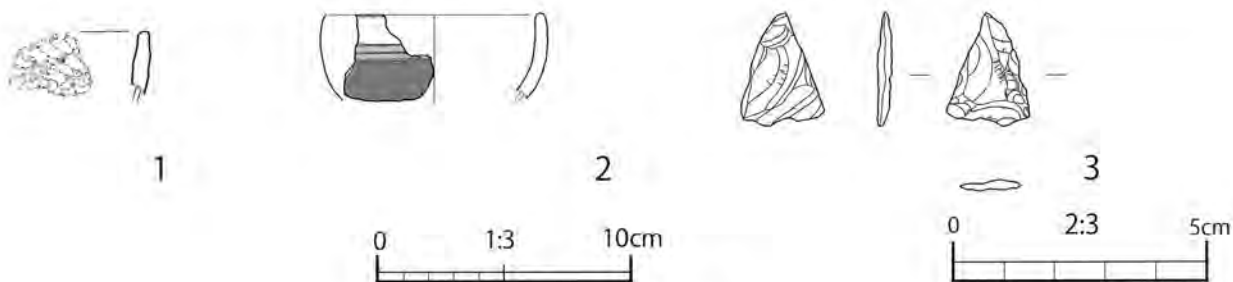
層名		基本土	混入土	固さ・密度・構造・混入物など
P5	a1	10YR3/4 暗褐色シト質壤土	10YR4/3 にぶい黄褐色シト質壤土 2%	中～固、中、塊状。陶磁器、炭微
P6	b1	10YR3/4 暗褐色シト質壤土	10YR4/4 褐色シト質壤土 3%	中～固、中、塊状。焼土微
P7	c1	10YR2/3 黒褐色シト質壤土	10YR3/4 暗褐色シト質壤土 10%	中～固、中～密、塊状。炭、焼土微

第 12 図 D区土層断面図、P5～P7 土層断面図



第 13 図 土坑跡 P1 ~ P4 平・断面図

層名	基本土	混入土	固さ・密度・構造・混入物など
P1	a1 10YR2/3 黒褐色 シル質壤土	10YR4/3 にぶい黄褐色シル質壤土 5%	中、中～密、塊状。縄文土器片
P2	a1 10YR2/3 黒褐色 シル質壤土	10YR4/4 褐色シル質壤土 10%	中、中～密、塊状。焼土粒微、炭粒微。
P3	a1 101YR2/2 黒褐色シル質壤土	10YR3/3 暗褐色シル質壤土 5%	中～固、中～密、塊状。焼土微
P4	a1 101YR3/4 暗褐色 シル質壤土	10YR5/6 黄褐色真砂土 15% 10YR2/3 黒褐色シル質壤土 15%	中、中～密、塊状。炭塊少
	b1 101YR3/4 暗褐色 シル質壤土	10YR5/6 黄褐色真砂土 1%	中～軟、中～密。塊状



第 14 図 土坑跡出土遺物

調査内容

1. 調査の方法

調査区は、重茂小学校の運動場の南側の谷である。東に向かって降る斜面にA～Eのトレンチを設定し、全区域を地山面まで掘下げる方法で行った試掘調査を行った(図4、5)。試掘調査の結果、A～Cトレンチで遺物包含層、D区で土坑跡、遺物包含層を検出した。本調査では、Dトレンチを拡張し、D区として遺構精査を行った(図5)。

2. 基本層序(図6～図9)

検出土層は4層に大別される。I層は盛土層である。調査区全域に堆積する暗褐色土である。II層は旧表土層である。褐色土の混じるやや締まった黒褐色土層である。陶器、土器などを含む。III層はやや締まった暗褐色土層である。土器、石器を含む。土性はやや異なるが、第2次調査のC1層に対応するものと思われる。

IV a、IV b層はCトレンチで検出した暗褐色土の混じる褐色土層である。地山への漸移層である。出土遺物は1点のみである。

3. 検出した遺構、遺物(図11～21)

D区

調査区の土層堆積状況は、基本層序の通りであるが、北東部ではII層、III層が削平され、盛土の下から地山面が検出した。また、北東部では水が湧きだし、一部湿地状態となった。

土坑跡(図11～13)

調査区の中央、傾斜が緩くなりかけるあたりで4基検出した。平面形はP1、P2が円形、P3、P4が楕円形を呈す。深さはP1が30cm、P2が20cm、P3が10cm、P4が45cmである。いずれも規模は小さく、柱痕などは確認できない。遺構の性格は不明である。P3から石鏃、P4から縄文土器片が出土している。

南壁面で断面を検出した土坑跡(P5～P7、図11)から陶器片が出土している。P5～P7の掘り込み面は3層上面であり、P1～P4も掘り込み面を同じくしていることから、P1～P4も近世のものである可能性が高い。

出土遺物(図14)

1はP4から出土した甕の口縁部である。外面に原体圧痕を施す。

2は、P5(図12、B～B'セクション)から出土した陶器である。やや湾曲しながら立ち上がる口縁部である。腰部に鉄釉を施した塗分け茶碗である。瀬戸美濃系で、19世紀代に伴う。3は土坑跡P3から出土した石鏃である。無茎の石鏃である。

遺物包含層出土遺物（図15～21）

基本層序のⅡ、Ⅲ層、Ⅳ層が遺物包含層である。本調査区D区とトレンチA、B、C区に分けて掲載した。トレンチEからは遺物は出土していない。

D区出土遺物（図15～18）

4はⅡ層から出土した口縁部片である。撚糸圧痕を施文され、胎土は繊維を含む。

5～34はⅢ層から出土した土器である。

5、6は条痕文土器である。5は斜位の条痕が内外面に施される。6は斜位、横位の条痕が外面に施される。

7～13は貝殻文土器である。7～9は口縁部である。7は口唇部に刺突を施された小突起をもち、沈線と腹縁文で施文される。口縁部内面に貝殻腹縁で連続圧痕を施される。8も外面は沈線と貝殻腹縁文で施文され、口唇部の内面に貝殻腹縁の連続圧痕をもつ。9は波状の口縁部である。頂部の下に刺突が施され、横位の貝殻腹縁文が交わる。口唇部の内面に貝殻腹縁文の連続圧痕をもつ。10、11は貝殻腹縁文で施文される。12、13は沈線と貝殻腹縁文で施文される。

14～16は内外面に縄文を施された「縄文-縄文」土器である。14は胎土に繊維を含む。17は、外面は無文、内面に縄文が施される

18～30は撚糸圧痕を施された体部片である。30を除き、胎土に繊維が含まれる。

31は口縁部である。口縁部に横位に沈線、口唇部に指頭圧痕を施される。32は結節する羽状縄文で施文される。胎土に繊維を含む。33は結節斜縄文を施される。34は補修孔をもつ体部片である。わずかに繊維が混入する。

35～51は石器である。

35～49は剥片石器である。

35はつまみをもつ石匙である。36は基部を欠損した篋状の石器である。

37から48は不定形の石器である。側縁、下縁に刃部を設ける。

49は打製石器である。背面に自然面を残す。小形の石斧である。

50、51は礫石器である。

50は敲石である。下縁と側縁に敲打痕を残す。51は特殊磨石である。磨面は二面あり、その両側に調整面をもつ。

トレンチA～Cの出土遺物（図19～図21）

トレンチA、Bでは地山面から黒色土層（A1、B1層）を検出した。出土状況から遺構の埋土でなく、雨列などの痕跡と判断した。堆積層Ⅱ、Ⅲ層と地山面の黒色土層（カクランA、B）からの出土遺物である。トレンチCではⅣb層から貝殻文土器が一点出土している（75）。

Ⅱ層出土遺物（図19、52～59）

52は陶器である。口縁部が直線的に立ち上がる塗分け茶碗である。瀬戸美濃系の産地と思われる。年代は19世紀以降である。

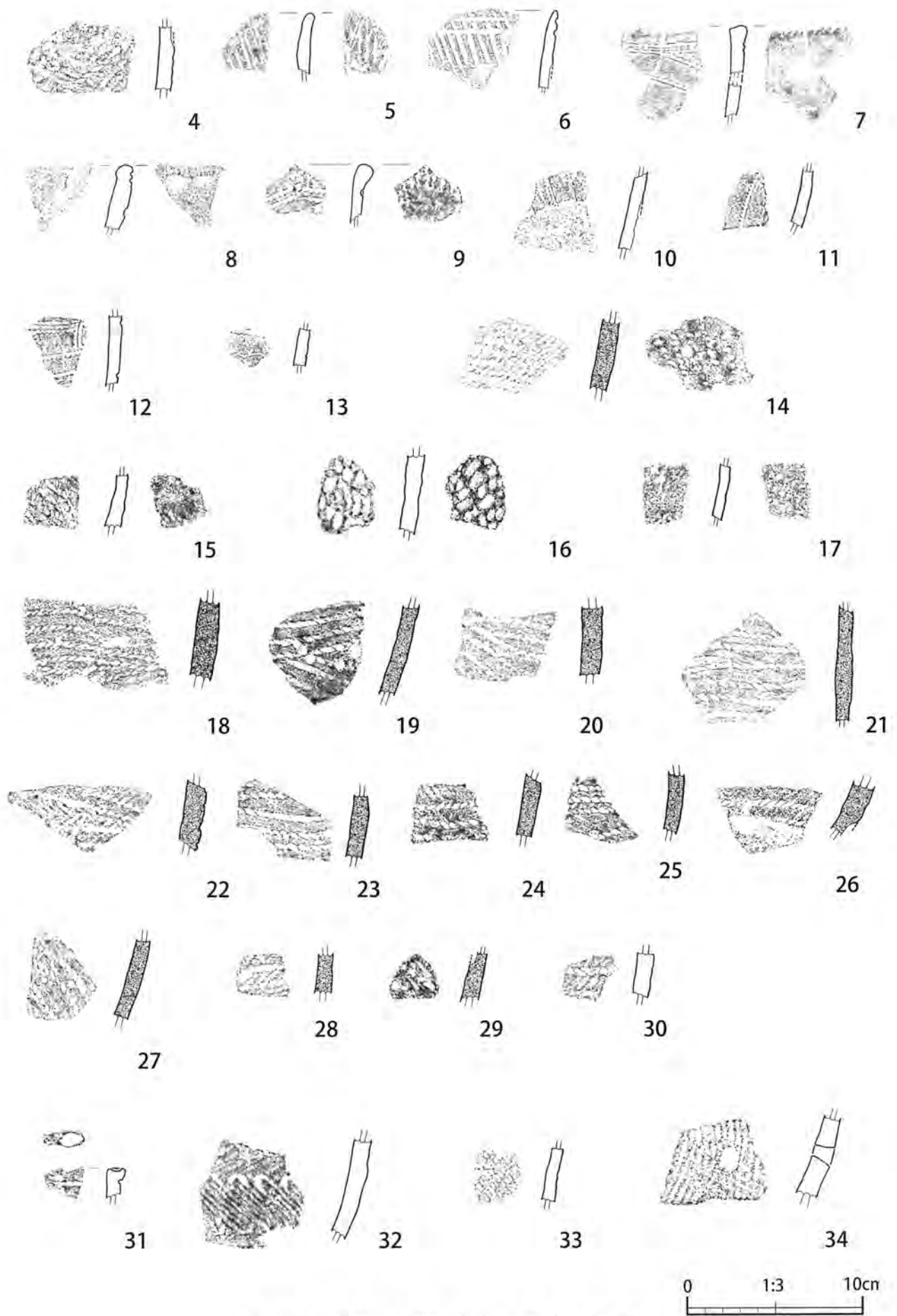
53～56は縄文土器である。

53は隆帯痕を残す体部片である。54～56は内外面に縄文を施された「縄文-縄文」土器である。

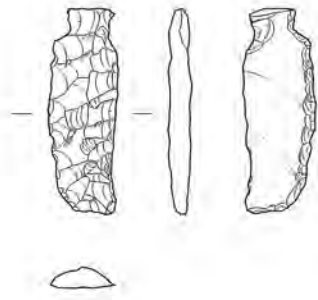
57～59は石器である。

57、58は不定形の剥片石器である。側縁に刃部を作る。

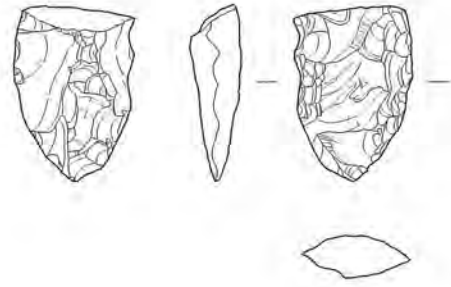
59は礫石器の特殊磨石である。磨面Aの両側面に調整磨面B、Cをもつ。



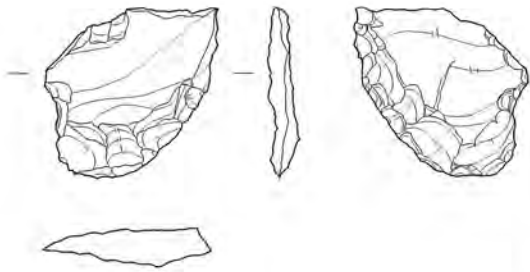
第 15 图 D区出土遺物 (1) 土器 (Ⅱ、Ⅲ層)



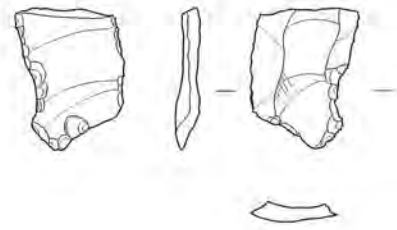
35



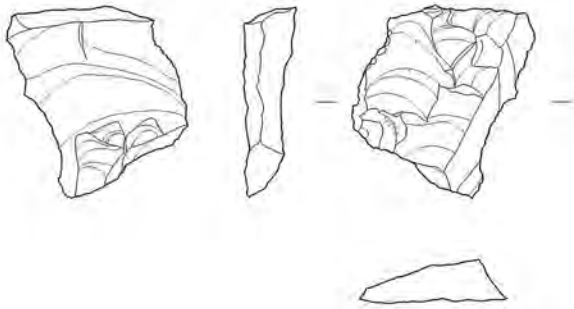
36



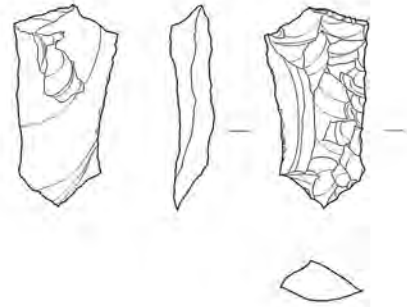
37



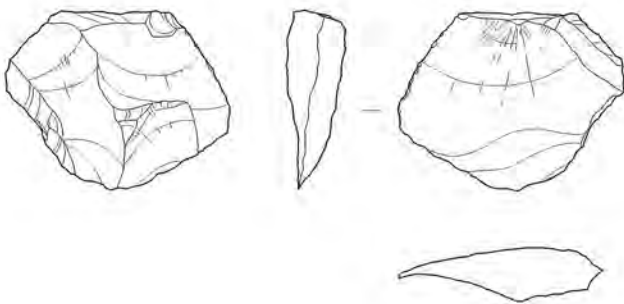
38



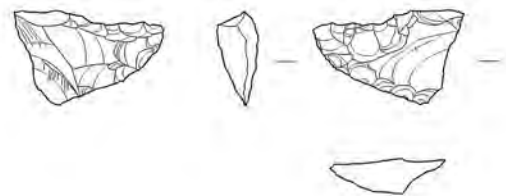
39



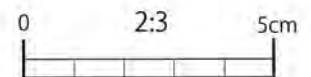
40



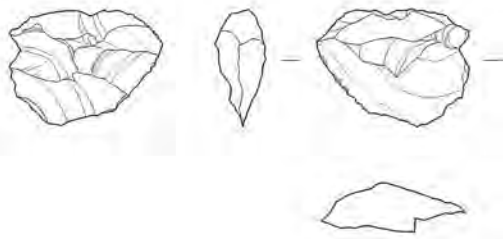
41



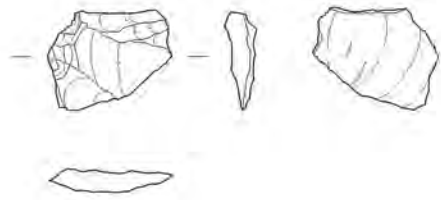
42



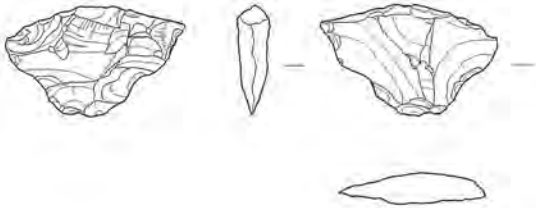
第 16 图 D区出土遗物 (2) 石器 (Ⅲ层)



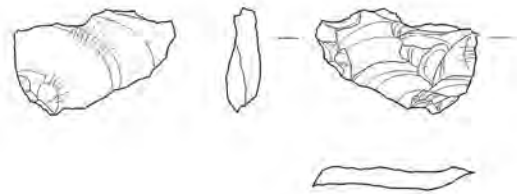
43



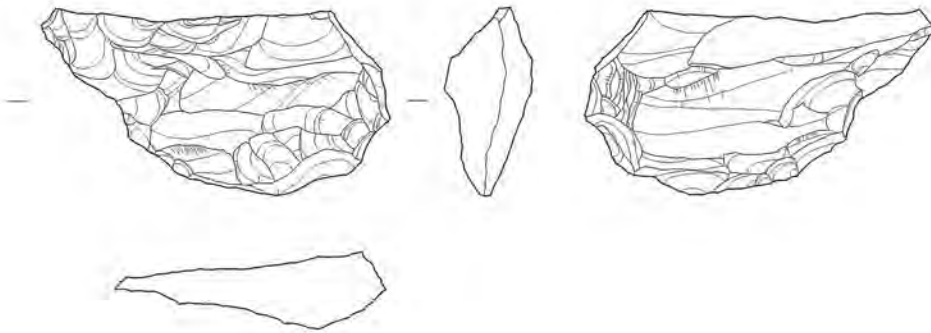
44



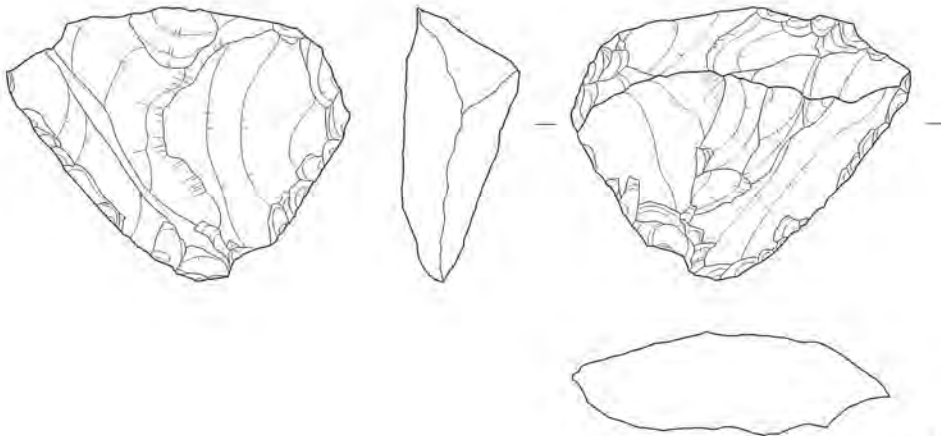
45



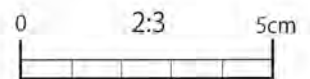
46



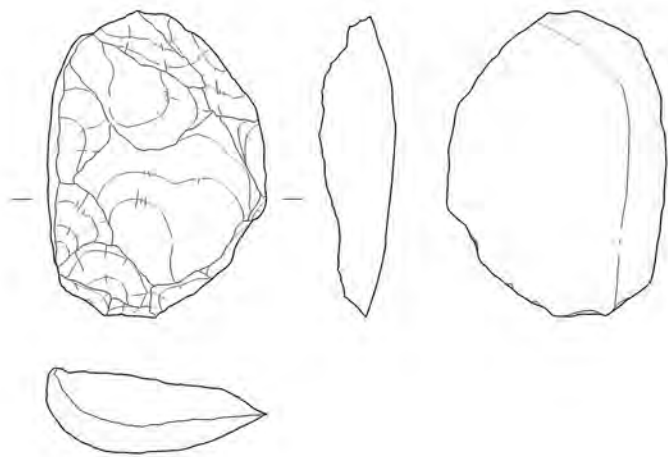
47



48

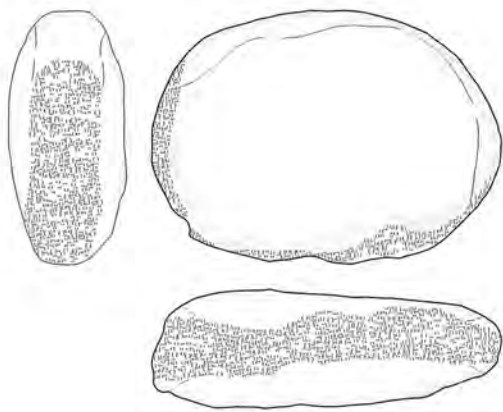
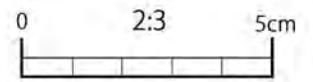


第17图 D区出土遗物(3)石器(Ⅲ层)

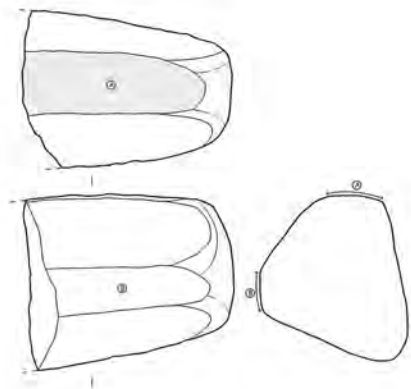


D区

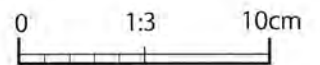
49



50



51



第18图 D区出土遺物(4)石器(Ⅲ層)



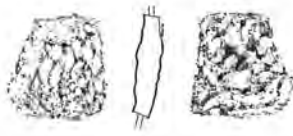
52



53



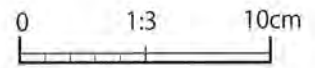
54



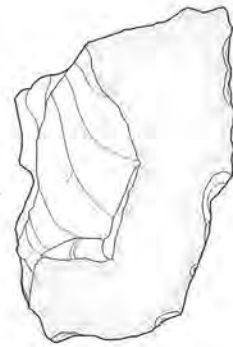
55



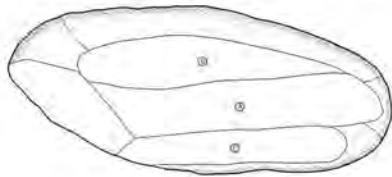
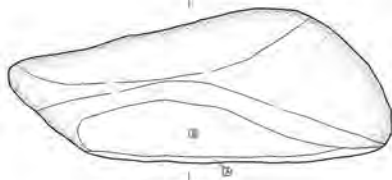
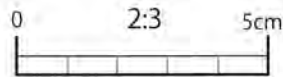
56



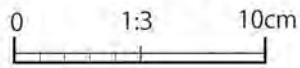
57



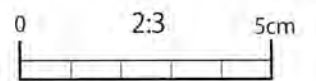
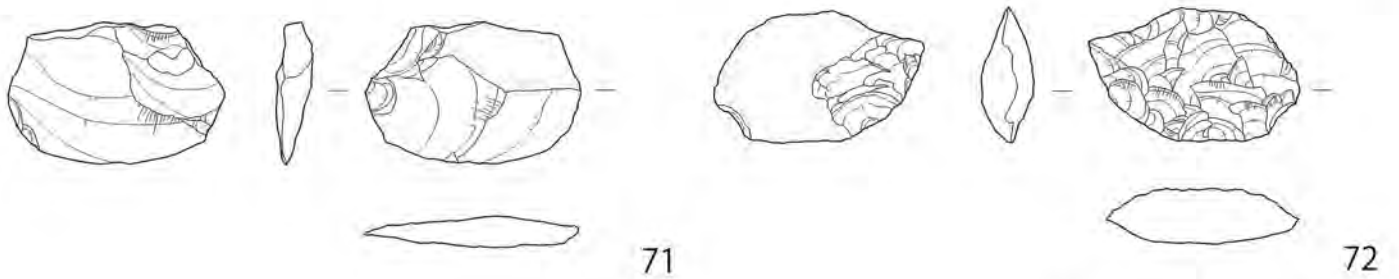
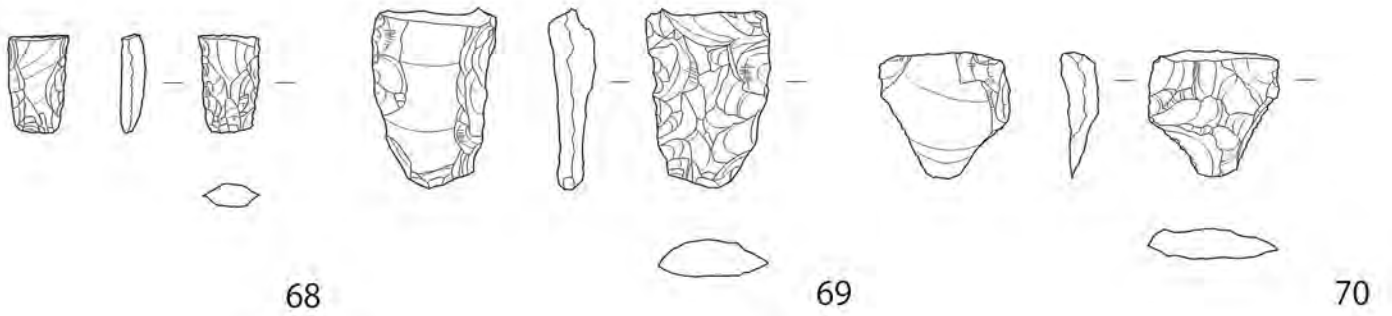
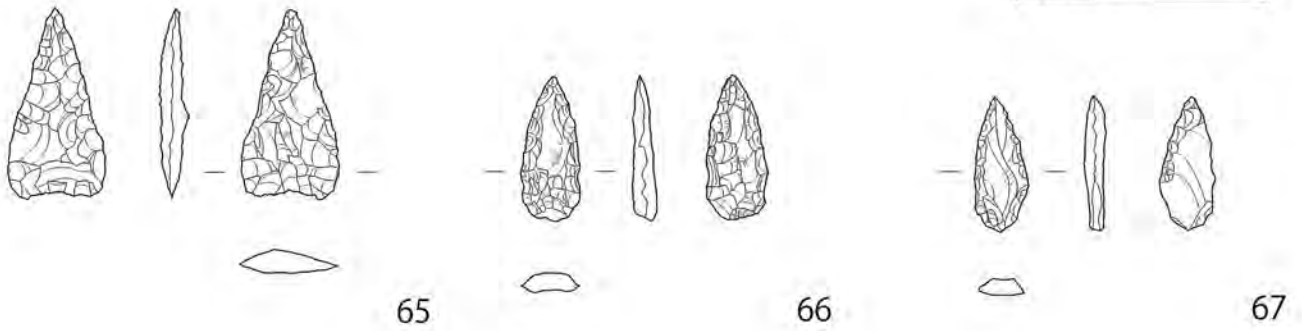
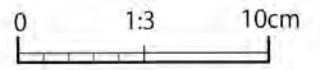
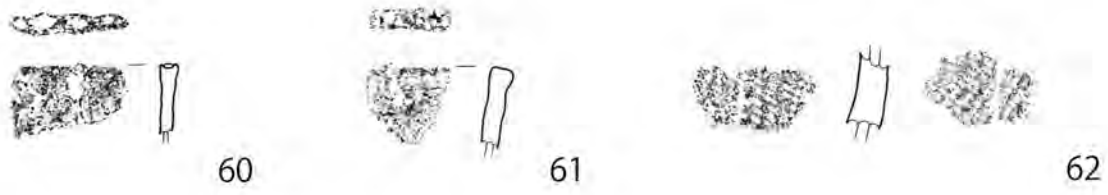
58



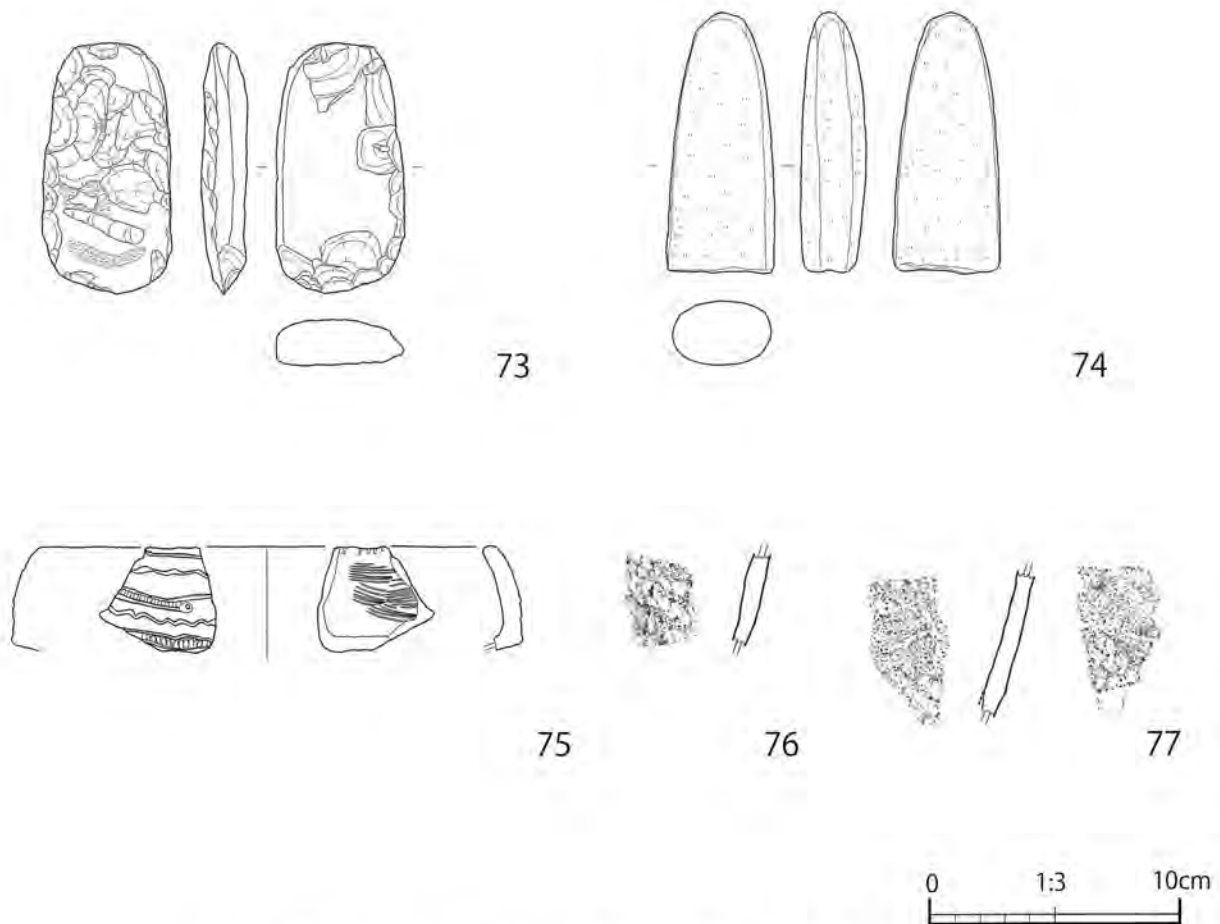
59



第19図 トレンチB、C出土遺物（Ⅱ層）



第20図 トレンチA~C出土遺物(1) (Ⅲ層)



第21図 トレンチA～C出土遺物(2) (Ⅲ層、Ⅳb層、カクラン)

Ⅲ層出土遺物 (図20、21、60～74)

60～66は縄文土器である。

60、61は口縁部である。それぞれ口唇部に指頭圧痕(60)、原体圧痕(61)を施される。62、63は内外面に縄文を施文した「縄文-縄文」土器である。64は無節の縄文を交差させて施文する。

65～74は石器である。

65～72は剥片石器である。

65～67は石鏃である。いずれも無茎である。

68、69は籠状の石器である。

70～72は不定形の石器である。いずれも側縁部に刃部を作る。

73、74は礫石器の磨製石斧である。

73は裏面と側縁に調整剥離痕を残す。74は刃部を欠損する。

Ⅳb層、カクランA、B出土遺物 (図21、75～77)

75は貝殻文土器の口縁部である。口縁部はやや内反し頸部がつよくくびれる器形かとおもわれる。外面は横位の沈線、貝殻腹縁文、刺突などで施文し、口唇部内側に貝殻腹縁圧痕を並べる。内面にハケメ状の調整痕を残す。あえて復元を試みたが、頸部の直径は約20cmである。

76、77は縄文土器である。76は撚糸圧痕で施文され、77は不明瞭であるが内外面圧痕文を施される。

4. 調査のまとめ

土坑跡について

調査区中央部で4基、南側壁面で3基検出した。いずれも規模は小さく、明瞭な掘方などは持たない。また、中央4基の土坑跡は、南側壁面の土坑跡と同じく掘り込み面がⅢ層上面であり、同時期のものと考えられる。土坑跡は、出土遺物からいずれも近世の遺構であると思われるが、遺構の性格は特定できない。

遺物包含層について

第2次調査（平成20年）の調査区は、今回の調査区の北側の運動場であった（第4図）。調査では、遺物包含層から縄文時代早期末葉に伴う土器が出土した。

今回の出土土器は、4種類に大別される。条痕文土器（5、6）、表裏に縄文を施文された「縄文-縄文」土器（14～17、54～56）、貝殻文土器（7～13）、撚糸圧痕文土器（18～30）などである。

条痕文土器は2点のみの出土である。条痕文土器は、やはり重茂半島の「笹沢Ⅰ遺跡」で遺構に伴った出土例が報告されているが、宮古市での出土例は少ない。縄文時代早期に伴う。

「縄文-縄文」土器は、前回の第2次調査では、出土遺物の主体をなしていた土器である。市内の調査例では、「鉾ヶ崎館山貝塚」、「千鶏遺跡」などで報告されているが、平成25年の公共住宅の建築に伴う「高浜Ⅱ今ヶ洞遺跡」の調査で、遺物包含層の最下層部から「縄文-縄文」土器がまとまって出土している。

貝殻文土器は、重茂館遺跡群では初出例である。市内では「鉾ヶ崎館山貝塚」、「荷竹日向Ⅳ遺跡」でまとまった出土例が報告されている。「荷竹日向Ⅳ遺跡」のなかで第1群土器に分類された土器は、当遺跡の出土遺物と類似しており、当遺跡の貝殻文土器も「物見台式」に伴うものと思われる。以上の土器群は縄文時代早期後葉に伴う。

撚糸圧痕で施文された土器は、横位、斜位の側面圧痕文のみである。刺突文、刻目文を欠いているが、「千鶏遺跡」でⅡ群A類に分類された一群に伴うものと思われる。縄文時代前期初頭に伴う。

第2次、第3次調査を通じて、「重茂館遺跡群」北側の縄文時代早期～前期初頭にともなう遺物包含層が確認されたことになる。

参考文献

- 「千鶏遺跡」 1989 宮古市埋蔵文化財調査報告書 1 6
- 「鉾ヶ崎館山貝塚」 1990 宮古市埋蔵文化財調査報告書 2 5
- 「重茂館遺跡群」 1992 宮古市埋蔵文化財調査報告書 3 1
- 「笹沢Ⅰ遺跡・加村遺跡・仲組Ⅲ遺跡・堺ノ神遺跡」
1995 宮古市埋蔵文化財調査報告書 4 5
- 「荷竹日向Ⅳ遺跡」 2008 宮古市埋蔵文化財調査報告書 7 4
- 「重茂館遺跡群」 2012 宮古市埋蔵文化財調査報告書 7 9

写真図版



調査区全景（西から）。トレンチ B～E



トレンチ A（西から）



トレンチ B（西から）



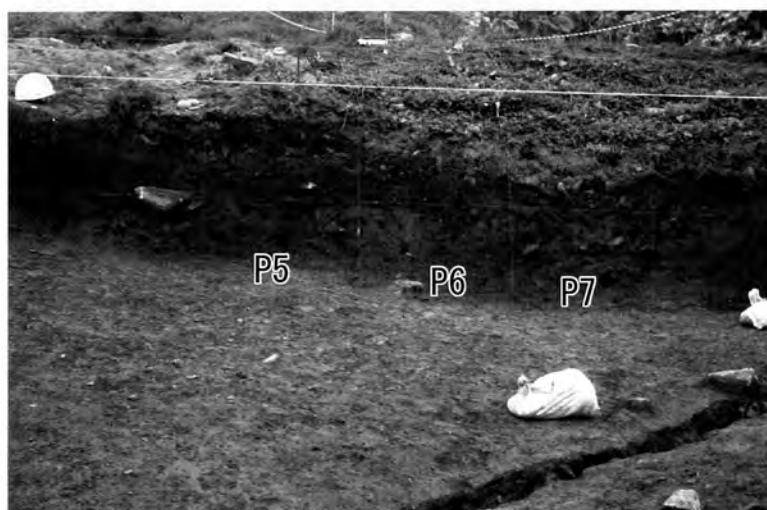
トレンチ C（西から）



トレンチ E（西から）



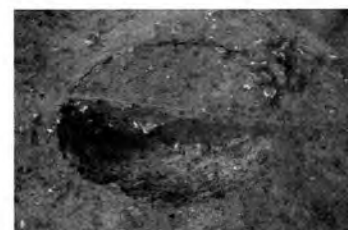
D区検出状況



D区 南壁面



P1



P2



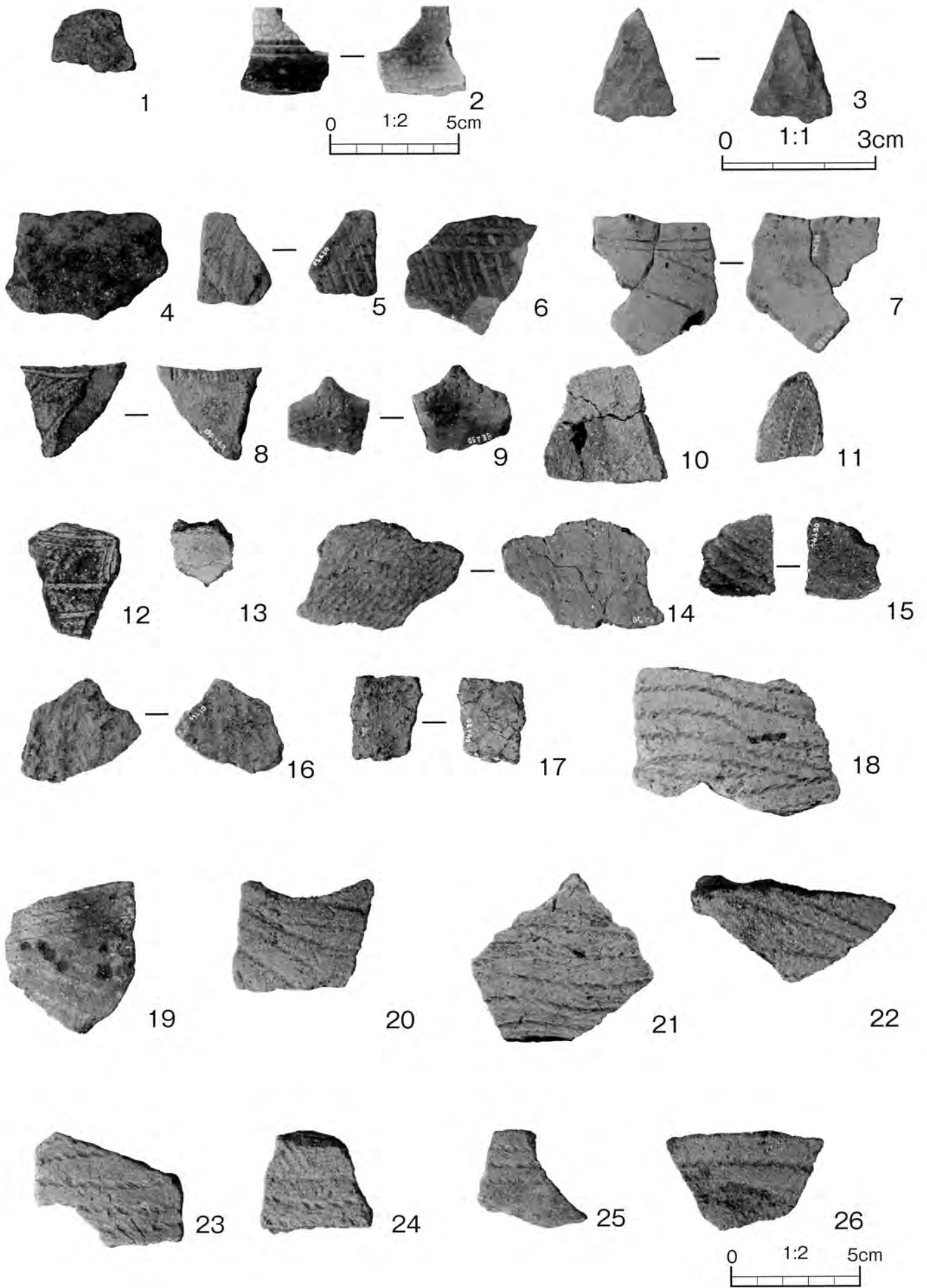
完掘状況



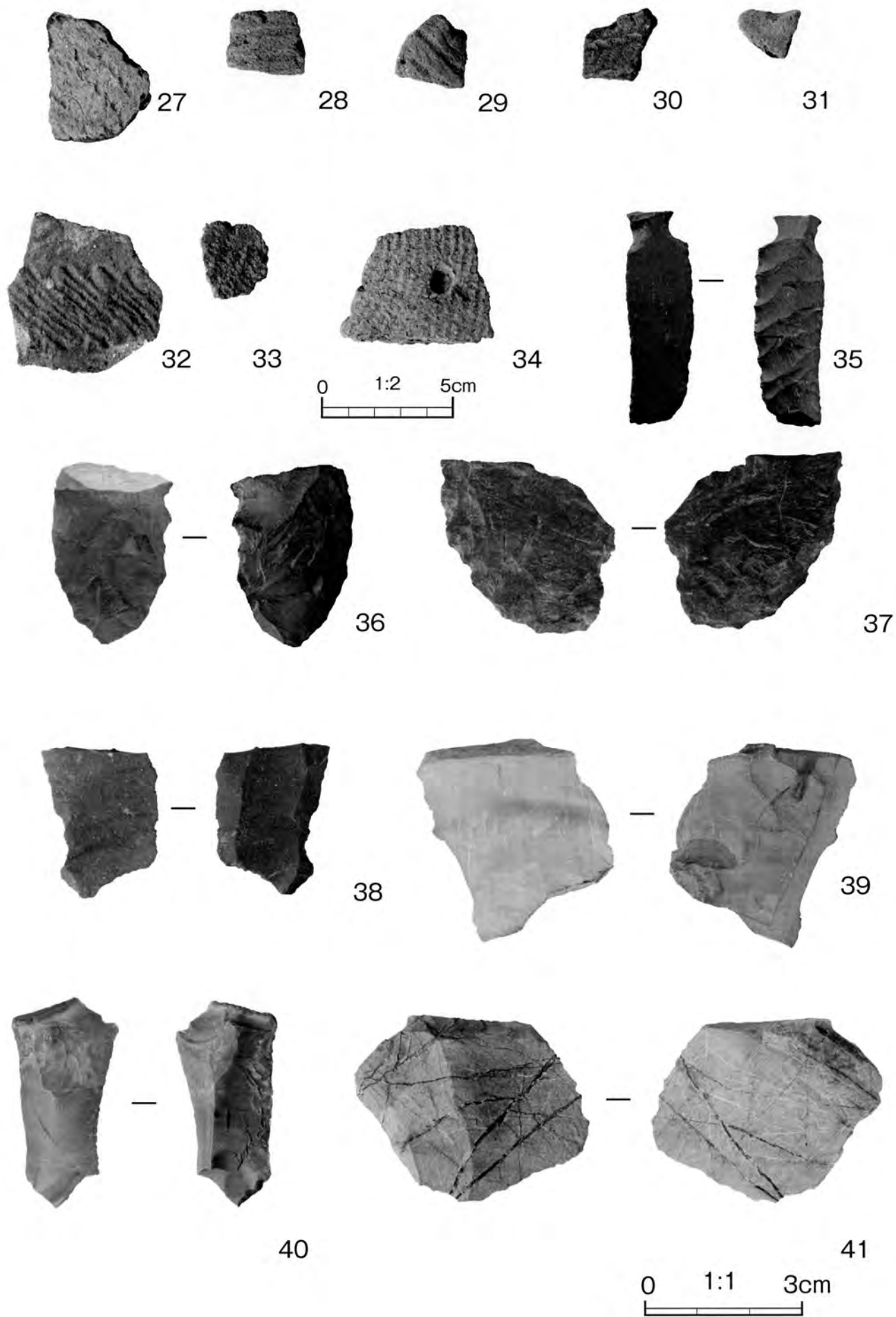
P3



P4



写真图版 4





42



43



44



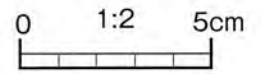
45



46



47



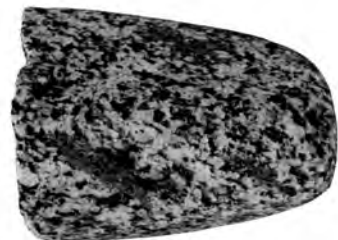
48



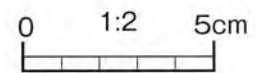
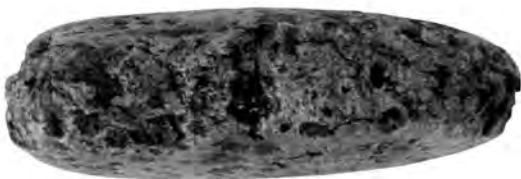
49



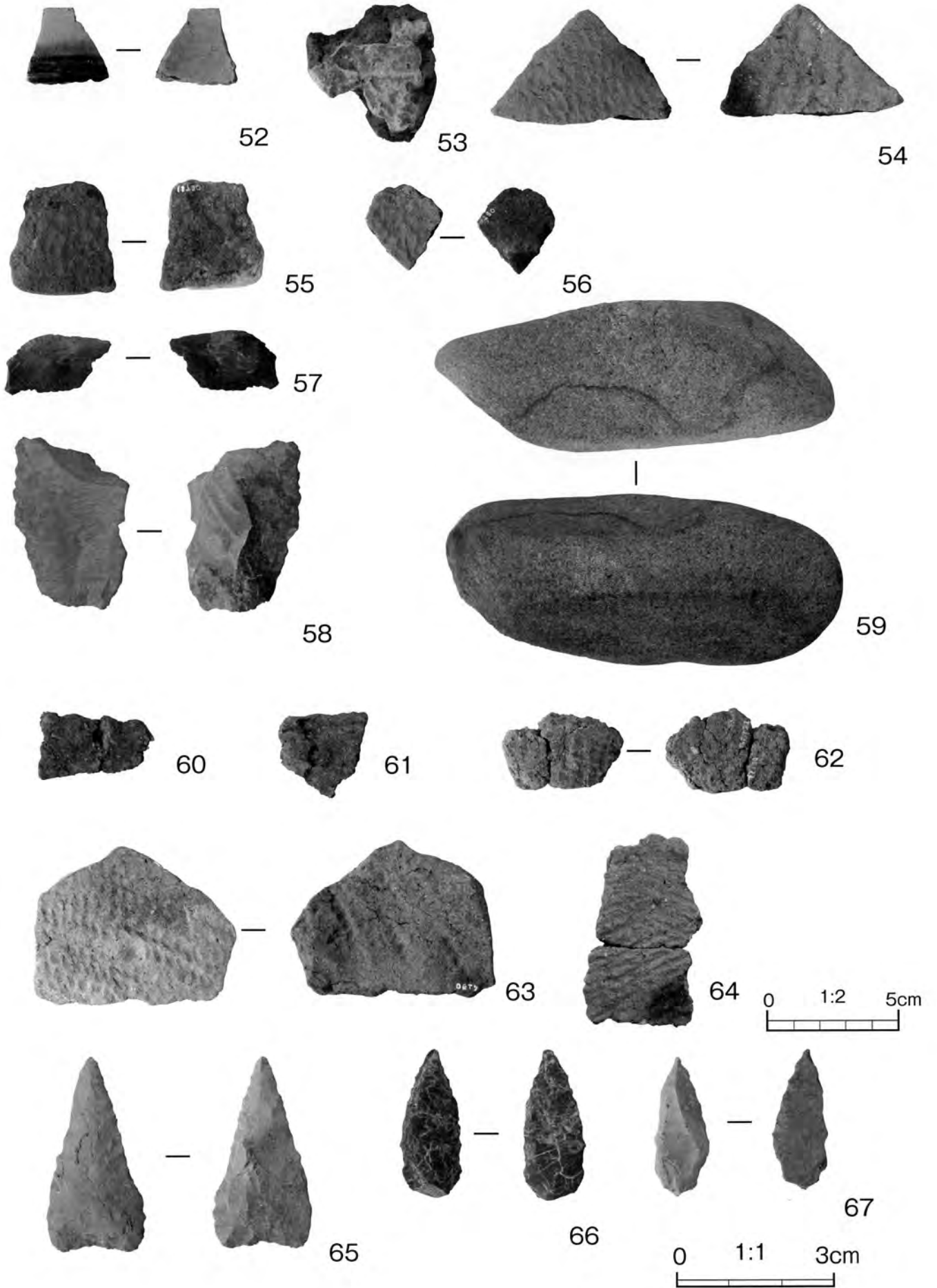
50



51



写真図版 6





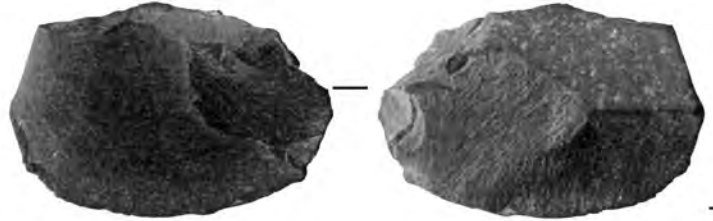
68



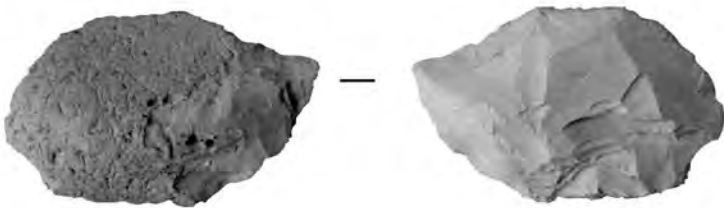
69



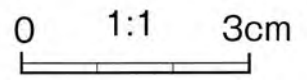
70



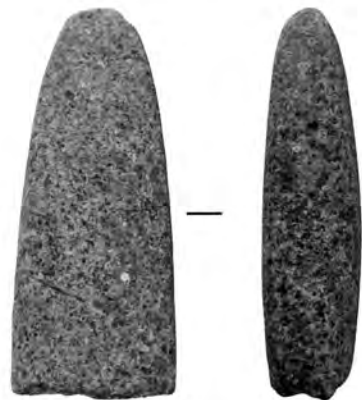
71



72



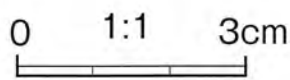
73



74

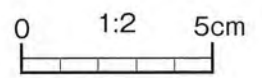


75



76

77



報告書抄録

ふりがな	おもえたていせきぐん
書名	重茂館遺跡群
副書名	第3次発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	宮古市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	87
編著者名	阿部 豊
編集機関	岩手県宮古市教育委員会文化課
所在地	〒027-0097 岩手県宮古市崎山第1地割16番地1
発行年月日	平成29年3月17日(2017年)

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おもえたていせきぐん 重茂館遺跡群	いわてけんみやこし 岩手県宮古市 おもえだいちわり 重茂第2地割 ばんち 12番地	3202	LG75-0284	39 度 35 分 5 秒	142度 1 分 18 秒	試掘調査 240903～ 240928 本調査 241009～ 241028	418㎡ 171㎡	重茂小学校仮 設グラウンド 整備事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
重茂館遺跡群	集落跡、城館跡	縄文時代早期～前期 初頭	小土坑跡 遺物包含層	陶器 縄文土器 石器

宮古市埋蔵文化財調査報告書一覧

1	1979	『宮古市大付遺跡発掘調査報告書』
2	1980	『宮古市千徳遺跡発掘調査概報』
3	1983	『宮古市遺跡分布調査報告書1』
4	1984	『宮古市遺跡分布調査報告書2』
5	1984	『赤前遺跡群第1次・第2次発掘調査報告書』
6	1985	『宮古市遺跡分布調査報告書3』
7	1985	『金浜館跡発掘調査報告書』
8	1986	『宮古市遺跡分布調査報告書4』
9	1986	『宮古市遺跡分布図—昭和60年度版—』
10	1986	『中谷地・島田遺跡調査報告書』
11	1987	『崎山貝塚・トノノ木IV遺跡調査報告書』
12	1987	『寒風・早稲橋IV遺跡調査報告書』
13	1987	『崎山遺跡群I—昭和60年度発掘調査概報—』
14	1988	『青猿I・下在家II・千徳城遺跡群(堀合館)—昭和62年度発掘調査報告書—』
15	1988	『崎山遺跡群II—昭和62年度発掘調査概報—』
16	1989	『千鶴遺跡—昭和62年度発掘調査報告書—』
17	1989	『トノノ木I遺跡—第1～7次発掘調査報告書—』
18	1989	『崎山遺跡群III—昭和63年度発掘調査概報—』
19	1989	『高根遺跡—昭和63年度発掘調査報告書—』
20	1989	『狐崎VI遺跡—昭和63年度発掘調査報告書—』
21	1989	『崎山トノノ木IV遺跡—昭和63年度調査報告書—』
22	1990	『狐崎遺跡—平成元年度発掘調査報告書—』
23	1990	『崎山遺跡群IV—平成元年度発掘調査概報—』
24	1990	『磯鷗館山遺跡—昭和63年度発掘調査報告書—』
25	1990	『鎌ヶ崎館山貝塚—平成元年度発掘調査報告書—』
26	1991	『崎山遺跡群V—平成2年度発掘調査概報—』
27	1991	『青猿I・千徳城遺跡群—平成元年・2年度発掘調査報告書—』
28	1990	『熊野町遺跡—昭和63年度発掘調査報告書—』
29	1991	『弘川I遺跡—平成2年度発掘調査報告書—』
30	1992	『金浜I遺跡(昭和58年度)・大付遺跡(平成2年度)発掘調査報告書』
31	1992	『重茂館遺跡群—第1次調査報告書—』
32	1992	『黒森町I遺跡—平成2年度発掘調査報告書—』
33	1992	『高根遺跡—平成3年度発掘調査報告書—』
34	1992	『鯉沢遺跡群—平成2年度発掘調査報告書—』
35	1992	『大付遺跡—平成3年度発掘調査報告書—』
36	1992	『細越I遺跡・芋野VI遺跡—農林課関係田代地区埋蔵文化財発掘調査報告書—』
37	1992	『崎山遺跡群VI—平成3年度発掘調査概報—』
38	1993	『萩沢VI遺跡—平成4年度発掘調査報告書—』
39	1993	『早稲橋VI遺跡—第1次・第2次発掘調査報告書—』
40	1993	『崎山遺跡群VII—平成4年度発掘調査概報—』
41	1994	『崎山遺跡群VIII—平成5年度発掘調査概報—』
42	1995	『赤前I牛子沢遺跡—平成4年度発掘調査報告書—』
43	1995	『磯鷗館山遺跡発掘調査報告書』
44	1995	『崎山貝塚—範囲確認調査報告書—』
45	1995	『笹沢I・加村・仲組III・堺ノ神遺跡—市道浦の沢線改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書—』
46	1995	『花原市遺跡—平成4年度発掘調査報告書—』
47	1995	『宮古市内遺跡発掘調査概報I 早稲橋VI遺跡・崎山貝塚』
48	1996	『大付遺跡—平成5年・6年度発掘調査報告書—』
49	1997	『花原市遺跡—平成8年度発掘調査報告書—』
50	1997	『白石遺跡—第6次発掘調査報告書—』

51	1998	『赤畑・天神山・山口館—北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書—』
52	1998	『蕨畑遺跡—平成9年度発掘調査報告書—』
53	1999	『赤前III・赤前IV八枚田・赤前V柳沢・赤前VI釜屋ヶ沢・小堀内III遺跡—水産課津軽石環境整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書—』
54	1999	『千鶴IV遺跡—水産課千鶴地区漁港漁村総合整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書—』
55	1999	『崎山貝塚—第12次・13次内容確認調査概報』
56	2000	『木戸井内VI・木戸井内III・上村III遺跡—特別高圧送電線ラサ工業宮古支線新設工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書—』
57	2002	『山口館跡—北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書—』
58	2002	『小沢VI大上遺跡—市内遺跡発掘調査報告書2—』
59	2003	『大又沢VI遺跡—東北電力宮古ヘリポート移設工事関係発掘調査報告書—』
60	2003	『上根井沢I遺跡・沼里遺跡—市内遺跡発掘調査報告書3—』
61	2003	『早稲橋VI遺跡第6次調査—市内遺跡発掘調査報告書4—』
62	2003	『下在家I遺跡—平成14年度発掘調査報告書—』
63	2004	『大程II遺跡・平浜遺跡—市道関伊崎線改良工事関係発掘調査報告書—』
64	2005	『弘川館跡—瑞雲寺裏庭整備関係発掘調査報告書—』
65	2006	『高浜VI地神遺跡—高浜四丁目宅地造成工事関係発掘調査報告書—』
66	2006	『崎山貝塚第20次調査・早稲橋II遺跡第7次調査—市内遺跡発掘調査報告書5—』
67	2006	『八木沢古館 八木沢中田遺跡 八木沢駒込I遺跡—市道岸ノ前ラントノ沢線道路工事関係発掘調査報告書—』
68	2006	『木戸井内IV遺跡—宮古市生活課市営火葬場整備事業関係発掘調査報告書—』
69	2006	『菅ノ沢遺跡発掘調査—市内遺跡発掘調査報告書6—』
70	2007	『山口館跡—市道北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書—』
71	2007	『近内館跡—宮古市都市計画課近内地区土地区画整理事業関係発掘調査報告書—』
72	2007	『牛子沢遺跡・大付遺跡第11次調査—市内遺跡発掘調査報告書7—』
73	2007	『弘川館跡第2次調査—宗教法人瑞雲寺住宅建築工事地区発掘調査報告書—』
74	2008	『荷竹日向IV遺跡—市道向川原荷竹線道路工事関係発掘調査報告書—』
75	2008	『宮古市遺跡分布調査報告書5』
76	2009	『国指定史跡崎山貝塚 第IV期内容確認調査概報(骨角器篇)』
77	2010	『宮古市遺跡分布調査報告書6』
78	2011	『宮古市遺跡分布調査報告書7』
79	2012	『重茂館遺跡群・第2次発掘調査報告書—』
80	2014	『八木沢駒込I遺跡・八木沢駒込II遺跡—市道磯鷗金浜線道路改良工事関係発掘調査報告書—』
81	2014	『蜂ヶ沢I遺跡・山口駒込I遺跡・山口駒込II遺跡—市道蜂ヶ沢線道路改良工事関係発掘調査報告書—』
82	2014	『赤畑東遺跡—山口病院新棟建設工事関係発掘調査報告書—』
83	2015	『千徳城遺跡群—一条工務店建設工事関係発掘調査報告書—』
84	2015	『黒森町I遺跡—宗教法人『先天大道—貫道日本總天壇』研修施設建設工事関係発掘調査報告書—』
85	2015	『菅ノ沢遺跡・備館I遺跡—市道長根岩船線道路改良工事関係発掘調査報告書—』
86	2016	『千徳城遺跡群—アパルト建築関係埋蔵文化財発掘調査報告書—』

宮古市埋蔵文化財調査報告書 87

おもえたていせきぐん
重茂館遺跡群

— 重茂小学校仮設グラウンド整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書 —

印刷・発行	平成 29 年 3 月 (2017)
発 行	岩手県宮古市教育委員会 〒 028-2101 岩手県宮古市茂市 2-112-1 TEL 0193-72-2175 FAX 0193-64-0212
編 集	宮古市教育委員会文化課 〒 027-0097 岩手県宮古市崎山 1-16-1 TEL 0193-65-7527 FAX 0193-65-7508
印 刷	株式会社文化印刷 〒 027-0037 岩手県宮古市松山 5-13-6 TEL 0193-62-4578 FAX 0193-64-0333

